北スラウェシ 日本人会

NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

1999年4月

タルシウス

TARSIUS

第４号

北スラウェシ出身の国家英雄 と マナドに流刑された英雄たち

北スラウェシ日本人会会報《タルシウス　第４号》

目　　次

◇ 在ｳｼﾞｭﾝ・ﾊﾟﾝﾀﾞﾝ 日本国総領事館　松田総領事殿　並びに
在ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ日本国総領事館　川上特命全権大使殿の
北スラウェシご訪問

北スラウェシ日本人会　会長　前田　良昭 2

◇ 在ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ在留邦人安全対策懇談会　辻田　武司 4

◇ 北スラウェシ出身の国家英雄　川井　雄二 9

◇ マナドに流刑された英雄たち　川井　雄二 15

◇ ビトンでの鰹節製造の歴史について　川口　博康 18

◇ 高校日本語教育支援　家田　章子 24

◇ スラウェシ島の歴史と民族　庵　波人 27

◇ 国際結婚　完全マニュアル　PartⅡ　押川　裕一 30

◇ メナドの親日家　ソンピさん　青木　次郎 33

◇ インドネシアのまぐろ延縄漁業　長崎　節夫 34

◇ MINANGA-RAFTING　(川下り)　川口　博康 37

◇ マナドの新風物詩　フィグラ祭　川井　雄二 40

◇ 家族主義について　ｽｶﾙﾉとｽﾊﾙﾄ　川口　博康 41

◇ マナドに来て６ヵ月です。　喜多　和 42

◇ 肥満／肝炎　海外生活健康マニュアル 46

◇ 編集後記　日本人会編集部 47

在ウジュン・パンダン日本国総領事館　松田総領事殿　並びに
在インドネシア日本国大使館　川上特命全権大使殿　の北スラウェシご訪問

北スラウェシ日本人会会長　　前田　良昭

去る２月１９日、在ウジュン・パンダン日本国総領事館　松田総領事殿の北スラウェシ州ご訪問に続き、３月１日、在インドネシア日本国大使館　川上特命全権大使殿の北スラウェシ公式訪問に際し、私は案内役として同行いたしました。

松田総領事殿は、ミナハサ県トモホン郡に対する日本政府のスキームの一つである草の根無償資金協力によって実施が決定されました「タラ・タラ村小規模事業支援計画」の署名式にご臨席されました。
同郡庁舎において「トモホン郡計画実施団体」「アミアンタ財団」代表者及び松田総領事が署名締結致しました。

ちなみに、同事業計画の概要は、ＰＯＨＯＮ　ＡＲＥＮ／ＥＮＡＵ（サゴヤシの木）から取れるお酒　ＣＡＰ　ＴＩＫＵＳ（ヤシ酒）を医療用のアルコールに精製するための機会設備の購入資金として無償資金協力されたものであります。

川上特命全権大使殿は、北スラウェシ州知事表敬訪問、北スラウェシ州警察本部長表敬訪問、経済協力プロジェクト視察、日本映画祭開会式御出席、元日本海軍軍人慰霊碑への献花及び各地を視察されました。

ちなみに、経済協力プロジェクト（ビトゥン港開発事業）の概要は、現在のビトゥン商業港の東側の国有地を利用して１０万トン規模の大型貨物船の接岸可能な岸壁及びコンテナー・ターミナルの新設や最新設備の導入により荷揚げ、船積み作業等の円滑化を進めるという大規模なプロジェクトであります。
尚、現在ＪＩＣＡの専門家によりビトゥン港周辺の工事等による海上汚濁汚染等の調査が開始されております。
日系企業または現地企業の方々で海上汚濁汚染に関してご心配のある企業の方々はＪＩＣＡ専門官、山本様までご相談下さい。
（ジャカルタ）　ＴＥＬ＆ＦＡＸ：（０２１）３４５－９９４７

各地視察につきましては、トンダノ地区（トンダノ湖）、トモホン地区（旧日本軍防空壕）、アイルマディディ地区（サワガン遺跡公園－ミナハサ地方の石棺ワルガ）、アネンボ・ネンボ地区（旧日本海軍航空隊の慰霊碑への献花）、ビトゥン地区（ミニ動物園－タルシウス等見学）、プナケン地区（海洋自然公園）等をご視察されました。

川上特命全権大使殿のご招待によります、北スラウェシ日本人会会員並びに在留邦人の方々との懇親夕食会がホテル・ノボテルにて開催されました。
席上、大使殿より日本人会に対して記念品としてゴルフ・カップを寄贈して頂きました。

1998年12月27日　忘年会　鹿島宿舎にて

1999年3月1日　川上大使との晩餐会　NOVOTELにて

前列中央が川上大使。 前列左端は広報・文化担当の二瓶三等書記官。

NO. 22, THN. I　Minggu Kedua Maret 1999　WARTA SULUT

Gubernur Sulut E.E. Mangindaan, lagi berbincang-bincang dengan Dubes Jepang Takao Kawakami diruang tamu Kantor Gubernur, beberapa waktu lalu.

1999年3月2日
E.E. Mangindaan 北スラウェシ州知事を表敬訪問する川上大使

週刊紙『WARTA SULUT』から

同州知事は、去る2月、少将から中将に栄進したばかり。

Selamat & Sukses

Atas Kenaikan Pangkat Kepada :

Bapak E.E. Mangindaan, SE
Gubernur KDH Tkt. I Sulut
dari Mayor Jenderal TNI menjadi Letnan Jenderal TNI

在インドネシア在留邦人安全対策懇談会

日時　：　１９９９年2月8日　１５：００～１７：３０
場所　：　大使館会議室
出席者　：

○大使館関係者

服部　公使　（大使館）
柳谷　総括参事官　（大使館）
島崎　参事官・経済問題担当　（大使館）
牛島　書記官・治安問題担当　（大使館）
千葉　書記官・内政問題担当　（大使館）
窪田　総領事　（総領事館）
山口　領事　（総領事館）
佐々木泰幸　（㈱ＪＳＳ危機管理コンサルティング事業本部長、元警視庁公安部中国・東南アジア担当係長）

○ジョグジャカルタ日本人会（会員数７５名）

渡辺岳志　事務局長　（八千代エンジニアリング）
笹原克夫　書記　（ＪＩＣＡ、建設省）

○バンドン日本人会（同１７０名）

鈴木俊彦　会長　（三菱レイヨン）

○パレンバン日本人会（同１６名）

内野　馨　事務局長　（ＰＴ．ＡＳＩＡＬＯＧ）

○スマラン日本人会（同８１名）

清田政秋　事務局長　（クボタ）

○ランポン日本人会

塚本裕泰　事務局長　（旭光真珠）

○ソロ日本人会（同１７名）

松木　優　幹事　（ＰＴ．ＴＵＲＡＩ　ＡＤＹＡＭＡＳ）

○バリ日本人会（同８４１名）

万亀子イスカンダル　名誉会長（ラマツアー）

○南スラウェシ州日本人会（同１００名）

赤松史郎　会長　（ＪＩＣＡ）

○北スラウェシ州日本人会（同３１名）

前田良昭　会長　（ＰＴ．ＫＡＳＵＡＲＩ　ＳＡＮＫＯ　ＴＵＮＡ　ＰＥＲＳＡＤＡ）
辻田武司　安全対策連絡協議会代表（ＰＴ．ＨＯＲＩＧＵＣＨＩ　ＳＩＮＡＲ　ＩＮＳＡＮＩ）

○アチェ特別州（日本人会未設立、在留邦人６名）
黒田良介　代表　　（東洋エンジニアリング）
○スラバヤ日本人会（会員数７００名）
鈴木　実　代表　　（スラバヤ日本人学校校長）
○バンジャルマシン日本人会（同４０名）
入沢　弘　事務長　　（ＰＴ．カリマンタンフィッシャリー）

議事内容　　司会進行：窪田総領事

１．あいさつ　（服部公使）
昨年５月暴動時の緊急連絡体制や国外退避に関して、
在留届、記載事項変更届、帰国届の提出を確実に行っていただきたい等

２．最近の政治・経済情勢
（１）内政関連　（千葉書記官）
選挙に関する話題
特徴　選挙三法改正による大統領が恣意的に選出するＤＰＲ議席の減少
（例：国軍議席　７０　→　３８）
州レベル比例代表制から県レベルの小選挙区制へ
日程　３／１～４／５
候補者登録
選挙人登録（自ら登録する制度に変更）
５／１８～６／６
選挙キャンペーン（２０日間）
現実的には制限なく、すでに始まっている
６／７
投票日
６／８～６／２６
県レベル発表（７／８宣誓式）
７／３～７／１２
国会議員発表（７／２５宣誓式）
１１／１０
正副大統領選出

（2）治安関連　（牛島書記官）

犯罪増加率はかなり大きい

邦人対象の軽犯罪では未届けの事例が多い

（９８年統計では報告があったのは、パスポート盗難４件のみ。現金盗難では恥を感じてか在外公館への届出がない。　→　ぜひ報告していただきたい）

邦人対象の強盗事件も起こっている　防犯の心構えがより一層必要である

選挙に関連してトピックとなる日には注意がより必要である

前回の選挙にはあった投票日前の静粛期間が今回は無い。

（直前の盛り上がりが暴動等に繋がる可能性を持つ）

大使館・領事館を通じて正確な情報を入手するようつとめていただきたい

（Ｅメールによる情報発信を準備中、できれば登録して欲しい）

緊急退避でインドネシア国外へ出た場合は、大使館・領事館への連絡が欲しい

（日本へ着いてから、外務省邦人保護課への連絡でもよい）

（3）経済関連　（嶋崎参事官）

為替相場　選挙に関連して動向は予想不能

失業者数、インフレ率の更なる増加

３．危機管理について　（危機管理コンサルタント　佐々木氏）

４．各地の情勢　（各地方邦人代表）

昨年５月暴動時の対応など

北スラウェシ州の場合

特徴　国外退避を余儀なくされるような事態は今のところ起こっていない

在留邦人は比較的少数で、単身者の割合が大きい

緊急連絡網はある（在留届を提出している邦人のみだが）

管轄在外公館である在ウジュンパンダン総領事館は遠方にある

緊急国外退避には、航空便によるものと船舶によるものがある

インターネット環境は充実しているとはいえない

問題　宗教紛争の可能性

緊急国外退避時のイミグレ、航空券、出国税他に関する諸問題

緊急時の空港までのアクセス

１９９９年2月１２日作成　　辻田

THE JAKARTA JAPAN CLUB FOUNDATION

１９９９年３月

ジャカルタ　ジャパン　クラブ
会　員　各　位

ジャカルタ　ジャパン　クラブ
海外邦人安全対策連絡協議会

最近の治安状況等のお知らせ

本協議会において、標記について、下記のとおりお知らせいたします。会員各位及びご家族並びに関係のご出張者等におかれましても、同様の被害に遭われないようご周知いただくと共に、十分ご注意ください。

ＪＪＣ海外邦人安全対策連絡協議会は、ＴＥＬ：３１５０４１８(担当：小野事務局長)、ＦＡＸ：３２５９０２、在ジャカルタ総領事館の連絡先は、ＴＥＬ：３２４３０８・３２５２６８

記

１．地方では、暴動の発生する可能性は引き続き極めて高い。３月５日付でインドネシアのマルク州アンボン島及びその周辺地域（ハルク島、サパルア島、セラム島)）を「渡航延期勧告」（危険度３）としたが、現在のところ更なる引き上げは考えてはいない。これらの地域は、地元のキリスト教徒と他から移住してきたムスリムとの対立が続いてきたが、最近では、アンボンのキリスト教徒と治安部隊との衝突が起こっている。このため、宗教民族間の抗争等による暴動は、治安部隊等が派遣されているにもかかわらず、今のところ終息の見通しは立っていない。なお、その他の地域は、今までと同じ危険度である。

２．暴動の懸念もさることながら、強盗、置き引き、旅券被害等一般犯罪に対しても、強い警戒が必要である。例えば、オフィスの応接間のテーブルの上に旅券等を置いてその場を離れている間に紛失した事件や、バッグを椅子に掛けて食事を取りに行っている間に盗難にあった事件、空港のＸ線チェックで持ち物を全部広げられ、チェック後財布の紛失に気が付いたが、周囲の状況から判断すると、空港関係者が犯人と思われる事件が発生している。また、ホテルでルームサービスを名乗る拳銃強盗事件も発生している。いずれにしても、チョットした油断が事件に繋がることを肝に銘じておくことが肝要である。一般犯罪に対しては、治安部隊は発砲も辞さない強硬姿勢でのぞんでいるが、現在のところ減少傾向にはない。

３．３月４日に総選挙に参加できる政党の発表があり、全部で４８政党である。この中には主要な政党（ゴルカル、開発連合党、闘争民主党、ＰＡＮ、月星党、正義党、民族覚醒党）はもとより、現在総裁が逮捕されている民主国民党、ゴルカルから分派したＭＫＫＬ、元国防治安大臣が総裁の正義統一党、旧国民党（ＰＮＩ）の流れをくむ政党、元非公認労働組合が後ろ盾になっている政党もある。今後の選挙キャンペーンが非常に騒がしくなることが懸念される。総選挙を実施する機関である総選挙委員会（ＫＰＵ）が設置され、総選挙実施のための細則や具体的ガイドライン等の今後の総選挙実施関係の一切を引き受けることとなる。メンバーは、政府代表５名、４８政党の代表各１名からなり、かなり独立性の高いものになるのではないかと思われる。いずれにしても、総選挙の大きな流れは、候補者の選定、選挙人名簿の登録等次のステップに進んでいくであろう。

４．総選挙の時期の危険な状況については、日増しに大きな懸念を呼んでいるが、他方、選挙参加政党等からは、どうにかしなければならないとの意見も出始めており、キャンペーンにある程度厳しいルールを設ける、旗を設置する場合は管理された形で出す等自制する動きも出てきている。今後の事態の推移を注意深く見守る必要がある。又、今後政党の集会等は頻繁に行われるようになる。かなりの人が集まり、若者がバスの上に乗ったりしている状況も見られることから、集会場所付近に近づかない方が良い。

５．学生の動きについては、メダン、スラバヤ、スマラン等の主要都市でデモが開始されている。ジャカルタでは、３月４日に治安部隊との衝突により学生側に負傷者が出た。最近の学生の要求は、アンボン事件との絡みで軍の責任を追求するもの、ハビビ大統領の退陣を迫るものであり、スハルト前大統領の追求は幾分おさまってきている。

６．労働運動については、例えば、バンドンで日系企業等にデモをかけ、地元の労働者の採用を要求して投石等を行う事件があった。なお、バンドンでは、キリスト教の集会場と学校がイスラム教徒に襲われる事件も発生している。

７．経済情勢については、中央統計局発表、２月の物価上昇率は 1.26 %で、１月に比べ半減している。内訳は、生鮮食品 2.32 %、加工食品・飲料・タバコ 1.94 %、住宅 0.98 %、衣料関係 0.91 %、保健医療関係 0.02 %、運輸通信ー 0.5 %、教育・娯楽・スポーツ 0.3 %、全体のインフレ率が 1.96 %である。ルピアレートは 8,000 台後半で安定した状態が続いている。２月２７日予定の銀行再編プログラムが延期された。再編プログラムは自己資本比率によって３つのカテゴリーに分類し、自己資本比率がー 25 %に満たない銀行については閉鎖することとして、精査の作業が進められていた。延期の影響は、ＩＭＦ理事会の開催時期が遅れる恐れがある。日本の支援としては、新宮沢構想の 24 億ドル支援の内、輸銀融資としてＩＭＦとのパラレルローンがあるが、ＩＭＦ理事会が遅れればこれにも影響が出てくる。円借款部分については、約 800 億円の円借を今年度分として近く供与すべくインドネシア政府と協議している。円借の内のソーシャルセーフティネットに係る世銀との協調融資は来年度以降になる見通しである。

８．保険の支払い状況からみると、携帯電話、ゴルフバッグ、車のミラー、オイルや車そのものの盗難等細かな被害がかなり多い。また「暴動特約」をつけて当たり前といっても過言ではないという状況になっているとのことである。ところで、運転手や警備員が犯行を行う可能性もあるので、最初の人選に気をつけることと、内部犯行に対しては厳しい姿勢で臨むことが重要である。

９．ジャカルタ日本人学校では、４月からの編入学予定者２６名を勘案すると、現時点では来年度の在籍者は６４３名～６８４名の見込みである。最近の特徴としては、在籍予定としていた家庭が本帰国となるケースが増えている。なお、私立、公立を問わず現地校が選挙前のかなりの期間休みとなるとのことなので、この点に係る対応を関係方面と協議することとしている。なお、ジャカルタジャパンクラブの個人部会員の動向を見ても、家族の帰国が多く、他方、新規入会者のほとんどは単身者である。

以　上

北スラウェシの出身の国家英雄

川井　雄二

インドネシア共和国が『PAHLAWAN NASIONAL （国家英雄）』として指定した人物は現在９７名いるが、その内、以下の５名が北スラウェシ出身である。
（主要参考文献：《ALBUM 97 PAHLAWAN NASIONAL》BAHTERA JAYA社　1996年第10版）

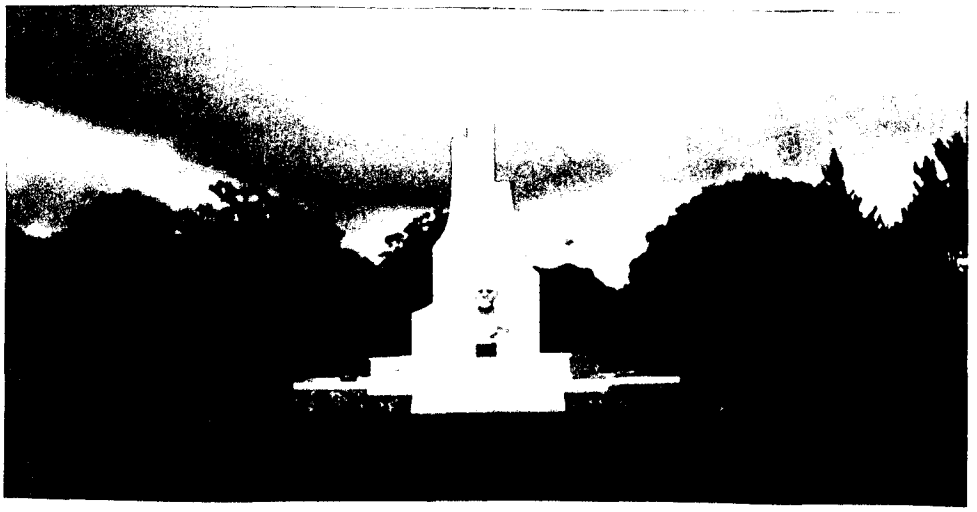
1．ラトゥランギ博士　（サム・ラトゥランギ）
DR. GERUNGAN SAUL SAMUEL JACOB RATULANGI

1961年11月09日付大統領令《１９６１年第５９０号》

インドネシア独立時におけるスラウェシの巨頭。『サム』という愛称で親しまれ、空港、大学、メイン・ストリート等にその名を残す。
1890年11月５日、トンダノ生まれ。オランダ語教育を受けトンダノの Hoofdenscholl卒業。1908年ジャカルタの技術学校（ＫＷＳ）卒業後、Maos-Cilacap間の鉄道建設事業に従事する。この時期同胞に対するオランダ人の仕打ちに憤慨し、オランダ人に対抗するには彼らより高度の学問を身につけなければならないと留学を決意する。
オランダ、スイスに通算１１年間留学。
1915年オランダ政府より中学数学教師の免状を授かる。
1919年にはチューリッヒ大学理学博士となる。
留学中、オランダでは『スティア・タナ・ヒンディア』（東インド国への忠誠）の議長となり、スイスではアジア留学生協会の会長となった。留学生の中にはインドのネルーや日本の東條英機がいた。当時オランダに留学中であった、R.A.Kartini の兄である Drs. Sosrokartonoとも親交を結んだ。
帰国後、ジョクジャカルタのＡＭＳ（高等中学校）で数学を教える。
その後、バンドゥンでインドネシア保険会社を設立する。
1924年～1927年、郷里マナドで民族主義運動に加わりミナハサ同盟の書記長（後に議長）となる。農業問題や教育問題など民衆の利益のため闘う。
オランダ語週刊紙『民族評論』編集長として「植民地問題」に健筆を振う。
1927年～37年、植民地参議会(Volksraad) 議員に任命される。
1932年、Vereniging Van Indonesische Academici （インドネシア学士協会）を設立。
この協会の主目的は民衆に対し民族意識を啓蒙することである。
1945年、インドネシア独立準備委員会のメンバーとして選ばれる。独立宣言後、初代スラウェシ州知事に任命される。その後オランダに逮捕され、イリアン・ジャヤの Serui に流刑された。1949年６月30日、ジャカルタて死去。遺体は故郷トンダノにて埋葬された。

【『インドネシア民族意識の形成』永積昭著　東京大学出版社　から一部抜粋】

このスティア・タナ・ヒンディアと東インド協会とはどういう関係にあったのだろうか。その初代議長がスラウェシのミナハサ族出身の数学者ラトゥランギであったことなどから考えて、中部ジャワ出身者が多く、また次第に政治的傾向を帯びつつあった東インド協会とは別の行き方を選ぼうとしたものの様である。ラトゥランギ自身が後年発表した論文によれば、「メンバーの中の欧亜混血児と原住民は反動的であった」とあるが、この「反動的」という単語は、恐らく「頑固」ぐらいに解釈しておかないと、ラトゥランギ自身の斬新的改革主義と、東インド協会に台頭し始める過激な政治的主張との関係が曇らされるおそれがある。
この団体がオランダ在住中国人に対してとった態度はきわめて示唆に富んでいる。
最初友情をこめて近づこうとする様子を示した中国人は、アムステルダムのスティア・タナ・ヒンディアが中国人を入会させないという決定をしたために、疎遠になった。つまり中国人を排除しようとする会員の態度を、ラトゥランギは「頑固」と称したのであった。



サム・ラトゥランギ記念塔（上）とその拡大部分（下）

サム・ラトゥランギ記念公園
（トンダノ市内）

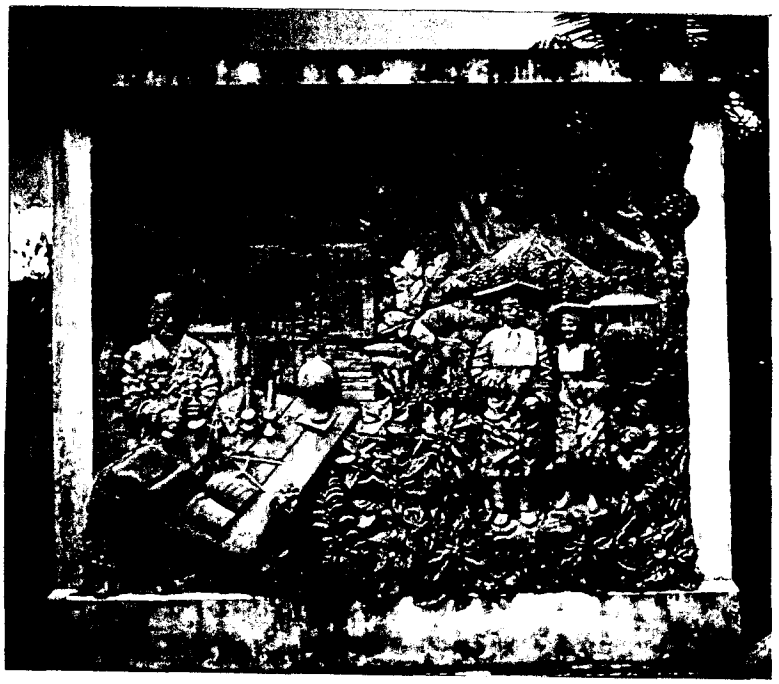
サム・ラトゥランギの政治理論はスカルノに
多大なる影響を与えた。

知名度こそ劣るが、サム・ラトゥランギは
スカルノ、ハッタと並ぶ独立運動の英雄である。

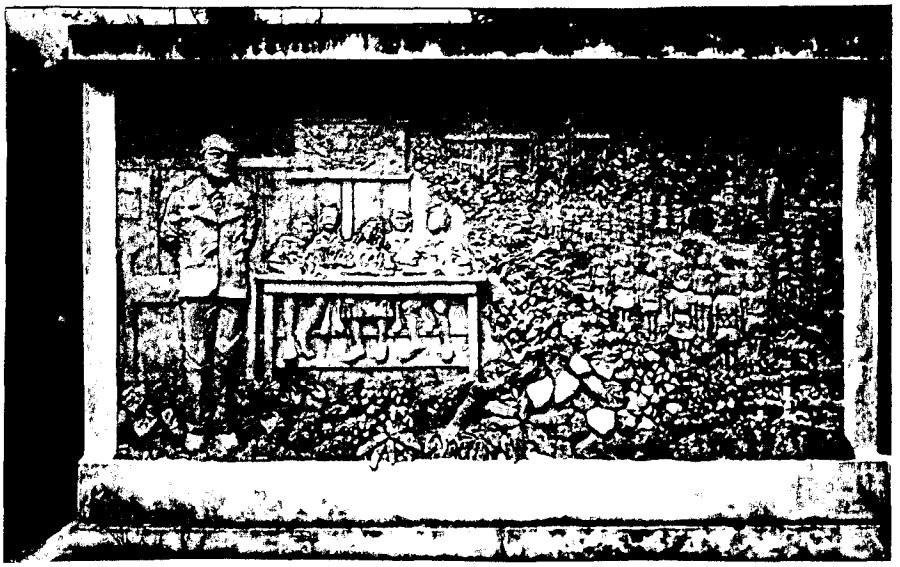
サム・ラトゥランギの墓

サム・ラトゥランギの業績を讃えるレリーフ
（サム・ラトゥランギ記念公園内）

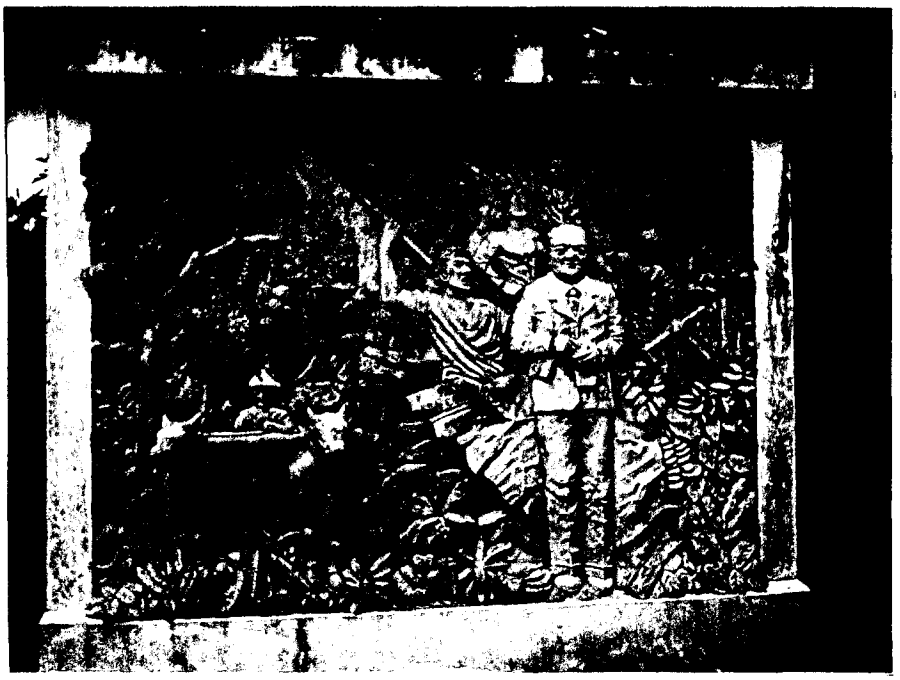
ヨーロッパ留学時代



教鞭をとっていた時代



独立戦争時代



2. マリア・ワランダ・マラミス
MARIA WALANDA MARAMIS

1969年05月20日付大統領令《１９６９年第０１２号》

1872年12月１日、北スラウェシの港町、 Kema 生まれ。６歳の時両親を亡くし孤児となり、２人の兄弟と共に Air Madidi に住む叔母 Ezam Rotinsulu に養われる。

教育は小学校卒業で終わった。当時ミナハサ人の女性は小学校より上の教育を受けることが許されなかった。小学校を卒業した娘は結婚するまで家で両親の手伝いをすることが習わしであった。

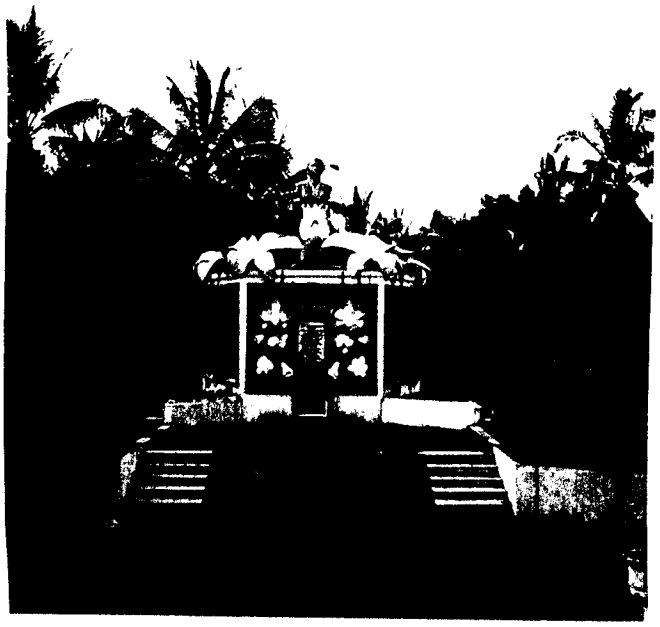
叔父は社交家であり、Ten Hoeven牧師とも親交があった。同牧師の薫陶により彼女の知識は広がり、やがてミナハサ女性の社会的地位の向上を理想とするようになった。彼女のこの理想は結婚を契機に実現化への方向へ向かう。

1890年、ＨＩＳ（オランダ式原住民小学校）教師である Yoseph Frederik Calusung Walanda と結婚。夫の尽力と周囲の協力により、1917年７月、『Percintaan Ibu Kepada Anak Keturunannya （ＰＩＫＡＴ）（子孫に対する母の愛情）』を設立した。この組織の当初の目的は、小学校卒の主婦に対し、料理、裁縫、育児法、手工芸などを教えることであった。

その後婦人の権利を向上させることに発展し、女性の社会的地位の向上及び選挙権獲得のために活動した。サンギルタラウド、ゴロンタロ、ウジュン・パンダンに支部が設立され、ジャカルタ、ジャワ、カリマンタンにも活動の輪が広がった。

同組織は絶えず資金面で悩まされていたが、1920年オランダ総督が援助金を出すことによってその問題は解決した。1924年死去、北スラウェシ Maumbi の地に埋葬された。

マウンビにある
ワランダ・マラミス記念公園



1987年3月8日、C.J. RANTUNG
北スラウェシ州知事により公認可される。

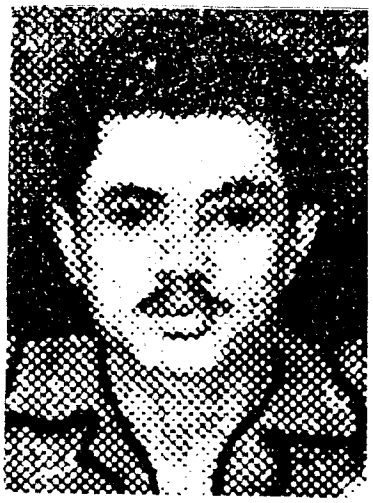
この記念碑の奥に女史と夫、ヨセフ・
フレデリックの墓がある。

右写真の拡大部分

3. アリー・フレデリック・ラスット
ARIE FREDERIK LASUT

1969年05月20日付大統領令《１９６９年第０１２号》

1918年７月６日トンダノで生まれる。
小学校卒業後、アンボン、バンドゥンの師範学校で学ぶが学資不足のため退学。その後、ジャカルタのＡＭＳで学業を続け苦労の末卒業。1937年医学校に入学するが、やはり学資不足のため１年後に中途退学。
遂には鉱山省からの奨学金を得て、バンドゥンの高等技術学校（現在のバンドゥン工科大学）に入学する。しかし第二次世界大戦の勃発により学業は中断された。
Corps Opleiding Voor Reserve Officiern（士官養成学校）で教育を受け、バンドゥンで対日本軍抗戦に参加。日本軍政期には『地質調査所』の研究員助手となり地質調査に従事した。
独立宣言後、地質鉱山研究所長に任ぜられる。オランダがバンドゥンを占領した時全ての官庁は同地から移転した。地質鉱山研究所はタシクマラヤを経てマゲランに移動した。
同地で鉱山学校や地質学校を開設。また同時期に Komite Nasional Indonesia Pusat (KNIP) 中央インドネシア国民委員会』の会員にも任命された。
インドネシアの地下資源の秘密を握る彼は、オランダに高給で誘われるが断固拒絶したためオランダに誘拐され、1949年５月７日ジョクジャカルタにて銃殺された。



4. ロベルト・ウォルテル・モンギンシディ
ROBERT WALTER MONGINSIDI

1973年11月06日付大統領令《１９７３年第０８８号》

1925年２月14日マナド市内マララヤンで生まれる。
Hollands Inlands School （ＨＩＳ）卒業後、ＭＵＬＯ（初等中学校）に進んだが、第二次世界大戦が勃発したため、２年生で学業は中断した。
日本軍政期には日本語学校で日本語を学習する。
独立宣言後、彼は他の若者たちとウジュン・パンダンで独立援護のための部隊を結成。オランダ軍の南スラウェシの侵攻時にはこの若者部隊との間に戦闘が開始された。
『Laskar Pemberontak Rakyat Sulawesi Selatan (LAPRIS)南スラウェシ人民反抗部隊』が組織され、彼は書記長に選出された。軍事作戦考案と共に、都市に潜入し情報収集の任務を負った。
LAPRISの活動に大損害を被ったオランダ軍は1947年２月28日、大規模な捜査網を張った。彼は逮捕されたが、10ヵ月後には自力で脱出した。
混乱したオランダ軍は更に厳しい捜査網を張り、その９日後に彼は再逮捕された。
オランダ軍は彼に協力するよう破格の報酬で慰撫しようとしたが、彼は固く拒んだ。
オランダ軍事法廷は彼に死刑の判決を下したが、彼は一切助命嘆願をしなかった。
1949年９月５日、Pacinangで銃殺隊に対面した。この刑罰を彼は平静心で受け、目隠しの布を付けることを拒否した。彼は左手に聖書を持ち、右拳を掲げ、『Merdeka （独立）！』と叫んだ後、24歳の生涯の幕を閉じた。1950年11月10日、彼の墓はウジュン・パンダンの英雄墓地に移された。

サム・ラトゥランギはあまりにも偉大すぎるせいか、当地では、庶民的なウォルテル・モンギンシディに一番人気があるようだ。マナド地方の小学校では現在でも彼を讃える歌を低学年で教えている。 𝄞 Robert Walter Monginsidi, tidak takut mati, walaupun ditembak mati...　（𝄞 ﾛﾍﾞﾙﾄ･ｳｫﾙﾃﾙ･ﾓﾝｷﾞﾝｼﾃﾞｨ 。怖くはないぞ。銃殺なんて....）

5．ピエレ・テンデアン大尉
Kapten Anumetra PIERE TENDEAN

1965年10月05日付大統領令《1965年ＫＯＴＩ第１１１号》

1939年２月21日ジャカルタで生まれる。両親はミナハサ出身。本人はジャワで育つ。

父親が医師であったため当初医師を志すが、軍人になるためバンドゥン技術大学に入学する。1962年同大学を卒業後、メダンのブキット・バリサン師団第二旅団に配属される。当時インドネシアと敵対していたマレーシアに潜入するなどの任務を経て彼の軍歴は開花していった。

1965年４月、国防調整大臣ナスティオン将軍の副官に任命される。

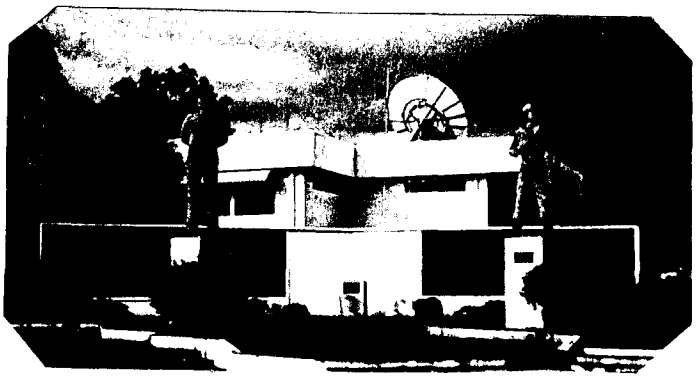
1965年10月１日未明、ＰＫＩ（インドネシア共産党）のクーデター部隊が自宅にいたナスティオン将軍を襲撃した。彼の容貌が将軍に似ていたため、彼を射殺したクーデター部隊は襲撃が成功したと思い引き上げた。

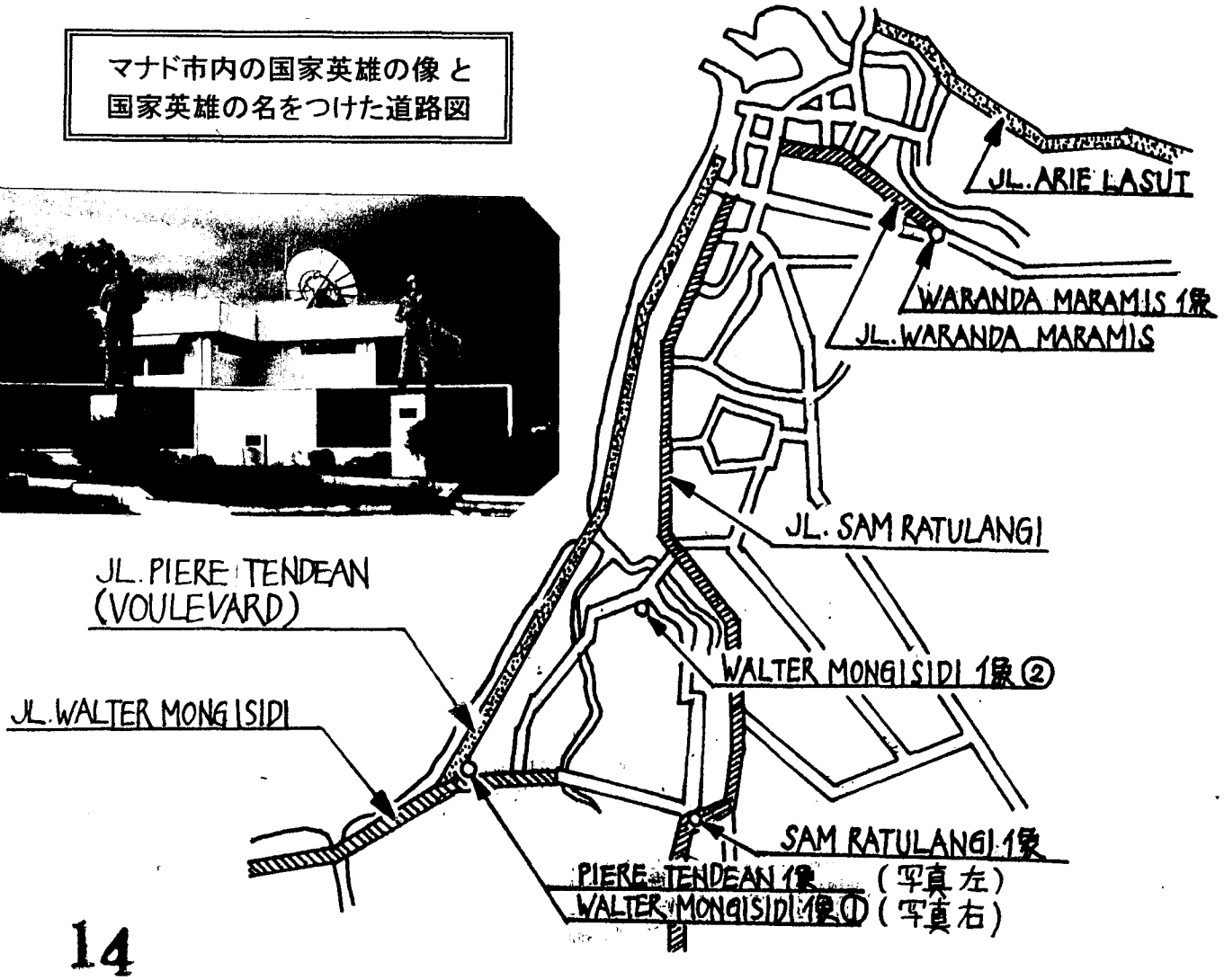
ピエレ・テンデアン中尉の遺体は、A.ヤニ将軍等の遺体と共に後日ルバン・ブアヤ（鰐の穴）で発見され、カリバタ英雄墓地に埋葬された。その後、大尉に栄進された。

『Pahlawan Nasional （国家英雄）』は、功績により、『Pahlawan Perjuangan Kemerdekaan（民族運動の英雄）』、『Pahlawan Kemerdekaan Nasional （独立闘争の英雄）』『Pahlawan Pembela Kemerdekaan（独立護持の英雄）』などの分野に分けられている。

上記、ピエレ・テンデアン大尉ら９月30日事件の犠牲となった将官は『Pahlawan Revolusi（革命の英雄）』として特別に分類されている。

マナド市内の国家英雄の像と国家英雄の名をつけた道路図





マナドに流刑された英雄たち

川井　雄二

マナドはアンボン、モルッカ諸島などと共に、オランダの植民地政策が最も成功した地域である。キリスト教の布教が盛んに行なわれ、同地方のオランダへの同化は極めて高かった。オランダ本国をしのばせるような建造物が一番多いのもこの地方だと言われる。
マナド人はアンボン人と同様、オランダへの忠誠心と勇敢さを買われてオランダ植民地軍の中核と成り、過去数世紀に渡ってインドネシア諸地方のオランダ側の治安維持に任じた。多くの場合彼らの駐屯地はジャワの各地であり、ジャワ人は彼らを『オランダの犬』と呼び、華僑に対するものと同様の憎しみを抱いた。
外島人と華僑を利用する、オランダ植民政府の『分割統治』という老獪な政策が見事に功を奏したのである。

現在でも、マナド人の親オランダ性を伺わせるものがいくつもある。
インドネシア、というよりも東南アジア一帯における女性の民族衣装のサロンを嫌い、洋風ワンピースで着飾るマナド女性たち。
顔立ちは全く現地人なのに、オランダ人の血統を誇示するために名前に Vanをつける男たち。
自動車を Oto、バス・ターミナルを Stasiunと呼ぶのはオランダ語の名残りであろう。
現在売り出し中のモデル兼女優の Moudy Wilhelmina は、オランダの Wilhelmina 女王を崇拝する父親がつけた本名である。

何故、マナド地方がこのようにオランダへ同化したのだろうか。
インドネシアの歴史地図を見ると、この地区には、イスラームが伝播せず、当時栄えていたマカッサル王国にもテルナテ王国にも属さない空白地帯となっている。
この地方には、絶対的権力を握る王がおらず、小さな集落ごとの豪族が割拠していた。
宗教的には、ヒンドゥーやイスラームの影響を受けない、独特のアミニズム的信仰であった。
つまり政治的、宗教的、文化的に全くの白紙の状態であったといえる。仮にジャワの様な高度な文化が存在していれば、このようにオランダ一色にはならなかっただろう。
逆にオランダ側にとって、植民地化にするには都合の良い条件ばかりである。
緑色や青色を赤色に変えることは難しいが、白紙を赤色に染めることは易しい。
おそらく、白紙に赤インクを垂らすように、マナド地方にオランダの様風が瞬く間に伝播していったのでないだろうか。

オランダに教育されたマナド人は、現地人官吏として、植民地軍兵士としてインドネシア各地に派遣された。一方、ジャワやスマトラのオランダにとっての『反政府活動家』は、逮捕されるとマナドやアンボン、モルッカ諸島などの『信頼できる』地方に流刑にされた。
マナドに流刑された民族の英雄の中で特に有名な者は、以下の３名である。

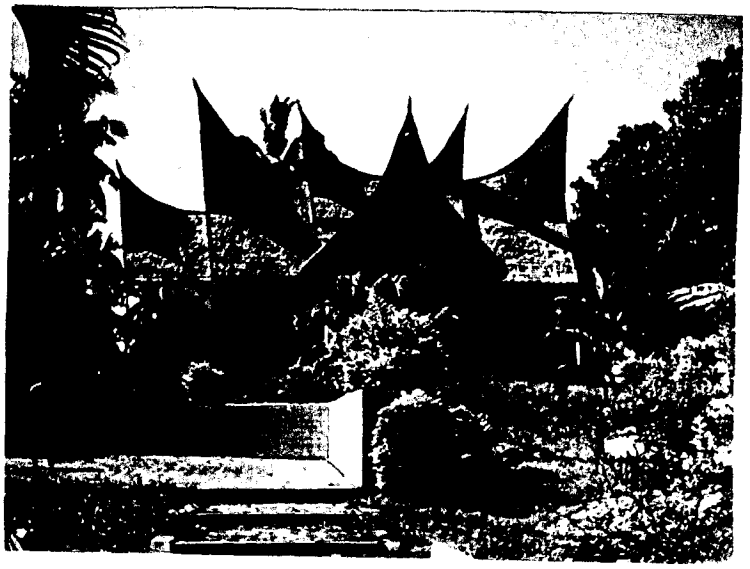
(1) <u>イマーム・ボンジョール　　TUANKU IMAM BONJOL</u>

1772年、西スマトラの Tanjung Bungaで生まれる。
本名は、 Peto Syarif Ibnu Pandito Bayanuddin。
父親や Tuanku Koto Tua、Tuanku Nan Renceh などのウラマーからイスラーム学を学ぶ。
19世紀初頭、慣習法（アダット）首長の権威に対抗してイスラーム法（シャリア）の確立を主張したパドゥリ運動の指導者として活躍した。
慣習法首長側についたオランダは、改革派を攻撃し、イマーム・ボンジョールも1837年捕らえられた。
西ジャワのチアンジュールに流刑されたが、民衆が彼の影響を受ける恐れがあるとされ、アンボンを経てマナドに流刑された。1864年11月６日、同地で死去した。

イマーム・ボンジョール記念館

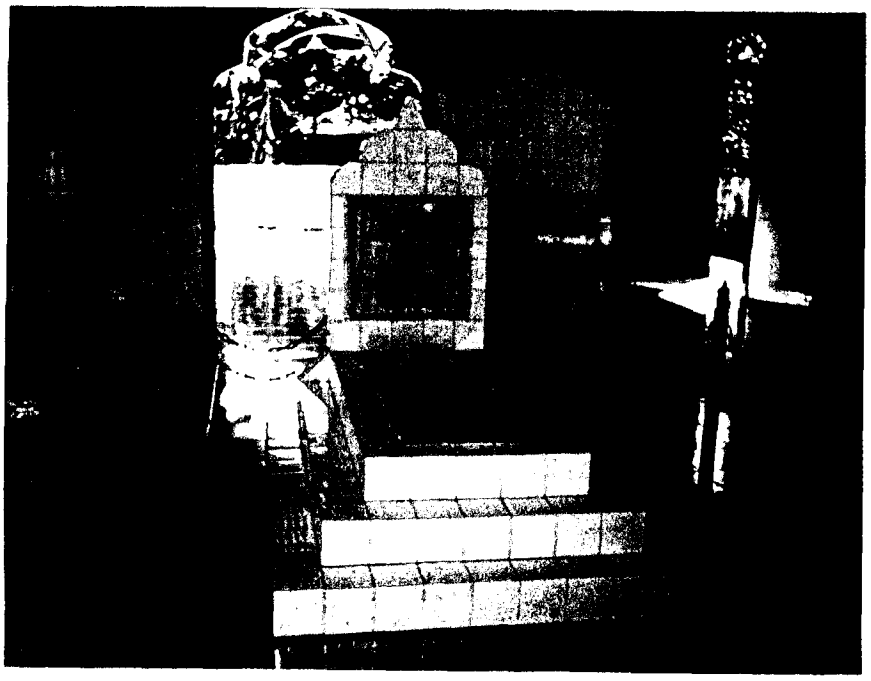
1992年12月、西スマトラ州政府及び
北スラウェシ州有志によって建造される。

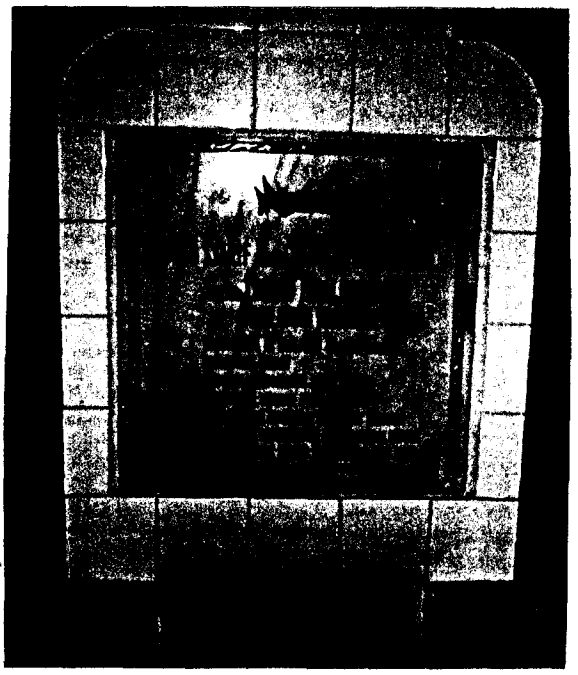
イマーム・ボンジョールの従者、アポルスの
曾孫にあたるアイヌンおばさんが孫娘
スリィと2人で管理している。

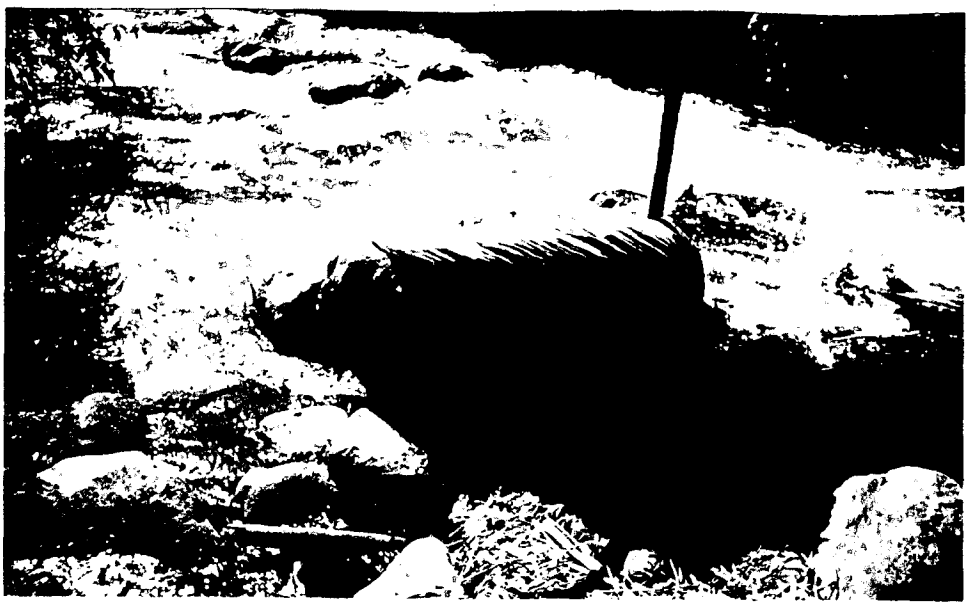


イマーム・ボンジョールの墓（記念館内）

一般には、生誕1772年、死去1864年とされているが、
墓碑には、生誕1774年、死去1854年と記されている。







BATU TEMPAT SHOLAT
TUANKU IMAM BONJOL

記念館の裏手の渓流の中にある大石。
イマーム・ボンジョールはこの石の上で
礼拝をするのを好んだという。

(2) デイポネゴロ王子　PANGERAN DIPONEGORO

1785年11月11日、ジョクジャカルタで生まれる。
幼名は Raden Mas Ontowiryo。
幼少期は、祖母 Ratu Ageng に養育された。
Sultan Hamengkubuwono Ⅲ世の長子であったが、母親が正妃でなかったため、父王の死（1814）後、弟がⅣ世として即位した。
1825年－1830年の５年間、民衆を率いてオランダ側に対する民族闘争の指導者となった。これは『ジャワ戦争』とも呼ばれ、オランダ側に大打撃を与えた。
生死を問わずディポネゴロを捕らえたものに対し、２万リンギットをオランダは懸賞金として約束したが、高貴の血統で、宗教的指導者でもあるディポネゴロを売るものなどいるはずがなかった。
. 1830年、オランダ側の狡猾な罠により捕らえられ、マナドに流刑された。その後、ウジュン・パンダンに移され、1855年、同地にて死去した。

(3) キヤイ・モジョ　KYAI MAJA　كياي موجو

スラカルタ（ソロ）地方の大ウラマー（イスラームの法学や神学の権威者）。1764年生まれ。
本名を Kyai Muslim Muhamad Halifah という。
貴族で戦闘司令官の Sentot Alibasah Prawirodirjo と共にディポネゴロを補佐した。
（Sentot Alibasah は、1829年ベンクルーに流刑され、1855年４月17日、同地で死去した。）
1829年、オランダ側に捕らえられ、トンダノに流刑された。彼に従ってこの地に来たものは６３名。全員が男性である。その中には息子の Kyai Gozali Bin Kyai Maja や Kyai Furkadan などがいる。
1849年12月20日、トンダノにて死去した。

キヤイ・モジョとその同志　英雄墓地（トンダノ）

1981年、Prof. DR. Haryati Soebadio教育文化局長により公認化される。

ジャワから来た従者たちは現地でミナハサ女性を娶り、定住した。この集団はやがて一つの村となった。
これがジャワ村（ Kampung Jawa)であり、現在に至るまでジャワの風習を守っている Hari Raya Ketupat の習慣は、ここからゴロンタロまで広まった。
彼らの子孫は通常、ジャトン(Jawa-Tondano)と呼ばれる。

ビトンでの鰹節製造の歴史について。

川口 博康

ﾋﾞﾄﾝでの駐在生活が４年目に入りました。そろそろ浦島太郎になるころですので身近なことについて皆さんにお聞きした事などまとめてみました。私がこちらに来るきっかけは私的にはブナケンの海に魅せられたこと、公的には鰹節作りということです。私の経歴がかつおマグロ漁船を中心に約１８年間漁師として暮らしその後陸にあがり、サラリーマン時代も鰹節の原料である輸入の冷凍鰹を焼津、鹿児島地区に販売していた経緯もあり南方での鰹節製造には非常に興味をもっていました。私の育った御前崎という漁師町では鰹節作りは今でも盛んです。丁度私の役職定年の時

こちらの方と結婚されていた坂口氏から妻の故郷でなにか仕事をしたいとの相談をかけられ、鰹節の製造を提案したことが私がこちらに来るきっかけとなりました。

ちょうど 会社もリストラ対策の事もありすぐに私のインドネシア行きは決まりました。ただ家内の了解をとるのに少し時間がかかりましたが。インドネシア＝イリアンジャヤの例のサックを付けている方たちと思っていたようです。

こちらに来て偶然にも以前読んだ資料の中にでてくる大岩氏の御家族の一人である、ＴＯＭＭＹ　ＳＥＭＢＥＮＧ（大岩 トミー、富）さんにお会いすることができましたので以下、トミーさんのお話を中心にビトン港における鰹節製造についてまとめてみました。この時期、藤林先生と北窓先生が鰹節についての文化史を調査されていましたのでより正確なものが出るものと思います。

おそらく江戸時代以前にも日本とこの地との交流はあったものと推察されます。

特に鎖国以前には相当数の日本人がこの地との交流があったことはサワンガンにある、古代墓地―石棺―バルーガの中にも日本人のお墓といわれているものがあることや多くの本、例えば「文明の海洋史観」川勝 平太著などが夢を駆り立ててくれます。

日本人でこの地に漁業を始めたのは長崎の栗本氏と数名の漁師の方たちであると記録に残っています。その後大正五年沖縄県人がムロ鯵漁を始めています。

１９２５年高知県人がテルナテに入ってムロアジ漁に従事。

１９２７年鹿児島の原耕氏が来航し日本式一本釣り（ＦＵＨＡＴＥ）をスタート。

（この件については別稿にてまとめたいと思っています。）

しかしこの当時すでに現地サイドでは伝統的な鰹一本釣り（ＦＵＮＡＩ）が行われていたとその航海記にあります。

昭和４年に日蘭漁業株式会社が創設され本格的な日本式かつお漁がスタートし

昭和７年、大岩氏はこの地にやってきてやはり鰹漁をはじめています。

大正、昭和にかけ日本の漁業は海外に大きく飛躍した時代です。沖縄県人が中心となり鹿児島、高知、静岡等の人達が多かったようです。昔からこの構成は同じですね。現在こちらに水産関係で駐在されているかたの出身地は昔とかわっていません。

当時海外に寄せる夢や期待は大きなものがありました。当時の業界紙や水産界のリーダーは盛んに南洋を目指せ無限の宝庫であると煽っていました。大東亜共栄圏構想が作られた時です。私は南洋の海ほど魚の密度の少ないところはないと思っていますが。いまだに多くの人達が南洋への夢を追ってやって来ます。しかし成功したという話は極少ないですね。遠洋漁業ほど日本人の特性を最大限につかった仕事はないと思います。特に刺し身という食文化を満たす漁師は日本人しかいないのではないでしょうか。

ＡＡ．戦前のビトンの鰹節製造について
ａａ．大岩勇氏のこと
大岩氏は愛知県トヨハマの出身で船大工であった。本名は中川であったがお祖父さんの友人の家に養子に行った為、大岩になったとのことです。
パラオで２－３年船大工をした後、テルナテ経由にてメナードにやってきたのが昭和七年五月であり、最初はメナードの川のほとりに大岩造船所をつくり主にすでにスタートしていた沖縄漁民の船等を造っていたが次第に彼らがやっている追い込み漁がうまくなりたたなくなり鰹漁に変えた事により大岩氏は漁業に入っていったようです。一本釣りの指導をしたのはパラオから呼んだ高知県出身の山下専仙次郎氏であったとのことです。
鰹一本釣り船―ビートン一号を乗り出し、同年８月にはすでにこの地で漁業を営んでいた金城組からメナード丸を買い次々に事業拡大し、（同年４月ビートン二号をテルナテに進出、この経営を江川俊二氏にまかせる）昭和八年十一月に鰹節工場をﾋﾞﾄﾝに設立した。最初の工場長は沖縄県人の古波蔵氏であった。その後第二工場長は焼津から呼んでいます。職工はパラオから雇い入れ鰹節の製造に本格的に着手したとのことです。
余談ですが現在、イカンフーフー（ＩＫＡＮ ＦＵ ＦＵ）と呼ばれ地元では人気のあるかつおのナマリ節はすでに当時はこの地あったと思われます。（ただこのイカンフーフーがアンボン地区とこのミナハサ地区に多いのは当時から鰹漁が盛んだったことからと思いますが以前高知の町でこれと同じ製法でナマリ節を作っていたのを思い出し何らかの関係も否定できないおもしろいことと思います。一説には日本人が教えたと言われています。
またこれは私見ですが以前私はかつおのタタキの製造―販売にたずさわっていた時タタキの起源について興味をもって調べた事があります。
特に面白かったのは江戸時代中期以前の日本料理のなかには肉や魚をミデアムやレアに焼くという料理方法はなかったということです。西洋の料理方法なのです。
江戸時代中期以降ヨーロッパの人達によって入ってきたものと未だに信じています
特に高知との関係が深いということはヨーロッパの船が遭難したかして接触したさいにこのような料理方法を覚えたのではないでしょうか。現在のようなかつおのタタキが関西で最初に売れたのは今迄の食文化の常識、赤身は関東―鎌倉の武士文化、白身は関西の公家文化によるものと基本的に区別されてきましたが当時担当者としては驚きでした。多分当時のスーパーダイエーの担当者の開発力と販売力によるものではなかったかと思っています。

現地労働者はシャンゲル島からの人が多かったようです。
シャンゲルの人の方が子供をあまやかさず仕事には忍耐力があった事。また清潔好きであったことが職工として使いやすかったようです。一方、ミナハサ人は子供をちゃほやし過ぎたため重労働を嫌ったことや、おしゃれであることはインドネシア中に知れ渡っていることと美人の産地であることも労働者としては向かなかったようです。このことは今もまったくそのとおりと思います。
このミナハサ人は子供の時モンゴル斑がでることから私達に非常に近いことは事実です。私の興味を誘うのはやはり美人の郷と言われている事です。以下私の観察です
Ａ．日本でも湿度が高い所は美人が多いと言われています。ここも湿度は非常に高い。
Ｂ．外国人―オランダー中国―日本などの血が混ざっている。ハーフは美人が多い。
Ｃ．多くがクリスチャンであることはお洒落指向が強い
Ｄ．最後に日本人でなければ判らないと思いますが、数多くの温泉があることです。

これらの温泉は肌が非常に奇麗になることは私が保障します。
E．ホスピタリティが良い。

氏は一度日本に帰りお祖父さんから資金を借用、沖縄船を買い取っていき事業の拡大をはかっていったようです。鰹節職人として三重県の人と沖縄の人が多く従事していったとのことです

１９３７（昭和１２年－１１月）の沿岸漁業改正により実質的には一本釣りが不可能になったためこれを解決すべく大岩と池春の両氏は日本総領事をつうじ陳情交渉した結果、解決を見、昭和１４年にオランダ経済長官から 沿岸漁業の許可を交付してきたことによって名実ともに邦人経営のものになったとのことです。

昭和１４年４月、ビジャック漁業組合を八万円でテイクオーバー
昭和１５年八月、日蘭漁業株式会社を六万円で　　同
昭和１５年は豊漁と漁価高、製品の高騰で急速に製氷工場、冷蔵庫などを増設しさらに缶詰工場の新設を急いでいたが昭和１６年５月、資本金１５０万円、借入金１００万円の東印度水産株式会社に譲渡―改組された。
なお大岩氏は社員として、その後の事務をみることとなった。
依頼順調に推移していったが、第二次世界大戦の勃発によって漁船、陸上施設とも空爆により破壊されてしまった。
工場があった場所は現在の商船岸壁の西端との事です。古い映画館付近です。
以下、当時の大岩組の状態 ――― 他紙より抜粋　昭和 16 年当時

漁船数　本船―１０隻　他に伝馬船、ランプ船、餌捕船など多数
本船は３５馬力―３気筒が殆ど。日帰り航海
船は地元で造り、エンジンは日本がもってきた。
漁船が大型化したのは製氷工場（日本の戦争補償）が出来てから
航海日数も最大７日まで延びた。氷を使わない場合７時間が限度

従業員数　邦人２０３名　現地住民４６６名　　合計６６９名
約２／３が漁船乗組員であった。

工場　かつ節工場―１０棟　製氷冷凍工場１棟

販売は　鮮魚でメナード地区　なまり節でミナハサ各地　　鰹節で輸出
一回に５０トン位のロットで出荷していたと。製品の質が良かった事も評判であった。

東インド水産（株）は軍えの水産物供給を目的に設立されたものと思います。ビトンの本社 アンボン、ケンダリの支社共に東インド会社になってから水揚の殆どは軍に販売していたとのことです。大岩氏は海軍嘱託で左官待遇となったことから海軍との間に強いパイプができたようです。
昭和１２－１３年ころのビトンは人口３千人、邦人数は１００人に達していたとのことです。漁業と共に発展してきたことは特記するに値する事と思います。
邦人商店も二軒設けられていたようです。独立当時の人口は約４５００人

メナードについて
メナードは日本語の港が語源と。
１９３０年の資料ですと、メナード理事州（ミナハサ）ヨーロッパ人３，１４６名
プリブミ１，１１０，３８６名　その他東洋の外国人８，６５５名，華僑２０，０２２名　計１，１４３，２０９名
日本人は１９３８年　領事館管轄で５３４名（メナード市には７６名）
１９３７年のメナード市在住の外国人は華僑６，０００名 ヨーロッパ人６００名

アラブ人３００　日本人１５０名　計３０，０００名

戦前のビトンはこの日本の大岩組の発展と同時に大きくなっていったと思われます。ビトン地区では当時の大岩組が実施していた歩合性が今でも残っており、非常に興味深いものがあり、また一本釣り漁船も殆どが日本式の漁労方式となっています。
昔からの一本釣りは小型で３－４噸位で船尾のみで釣りますが（フナエ）日本式は船首部分で釣るのが特徴です。船型も船首部分が突き出しているクリッパー型の独特の奇麗な流線形をしています。擬餌針や撒き餌なども日本からのものとのことです。

当時、現地の女性と一緒になった船員の子どもたちがビトン等に住んでいますが日本語は判らないようです。其の中の一人であるＲＯＢＹ氏はパジェコ船―10隻、鰹一本釣りを一隻持っていたが三年前に亡くなり今は子供たち（孫）が経営していると。

大岩氏の奥さんは蒲郡の人で子供は三人あり―女性であったようです。
カズコ
スミコ
？　　戦時中に生まれた　生きているかも――

大岩 勇氏には、二人の現地妻があり
一人はシャンゲル島出身の方であり　　トミー氏の母親
　　男三名、女二名
もう一人は中国系 の方であり　　男一人、（フランス氏），　女一人

関東大震災は横浜にアンカーを下ろすと同時に地震を経験した。
大岩氏は２－３年毎に日本に資材の調達などで帰国していたようです。

大岩氏はビトン―日本間に使う運搬船を購入する夢がかねてよりありやっと、５００トンの船を購入するも、軍部からこの船を名古屋から舞鶴に回航しそこで兵隊を乗せプサンに向かいこの運搬任務終了後にビトンに向かってよいとの命令を受けた。終戦の二ヶ月前（６月２０日ごろ）予定通り真鶴を出港したのですが、プサン（韓国）の７マイル沖で連合軍の艦載機により爆撃される。機関長だけが漂流していたところを救出され後に家族はこの事実を聞かされた。
大岩氏のお墓は横浜にうつしてあると。５０歳前後の時とのこと――――。

ｂｂ．大岩 勇氏の御子息のお一人であるトミー（富）氏について
１９３１年ビトン生まれ
1940（昭和１６年６つき）最後の引き揚げ船で父と一緒に日本に行く。ＯＯＩＷＡの名前ではオランダの学校に入れてもらえなかった為。９才の時であった。父は医者にしたかったと。
元ビトンの大岩漁業の社員だった青山氏の奥さんが東京に帰っていた為、ここに預けられた。東京国民学校（小学校）に入学。四年生の時集団疎開で長野に行った。
落ち付き先は長野―松本―と電車に乗って無極寺（東竹間郡ワダ町）であった。生徒６４名、先生男２名、女１名　終戦までの約年半―二年ここに疎開していましたが終戦になっても汽車が一杯の為直ぐには東京に帰れませんでした。しばらくしてから東京に帰り世田谷奥沢に住んでいました。東京工業大学の隣でした。父の事で今でも強く残っている思い出は、お父さんがお寺まで面会に来てくれたことです。お父さん

は私個人にではなく学校に全生徒にと言って肉、砂糖、石鹸）を持ってきてくれました。先生も誉めてくれました。個人にではない事に対してです。
父との最後の別れは駅に電車を見送りに行った時です。帰りの田圃道で見上げた夜空に流星が多かった事を今でもはっきり覚えています。
父は学校に大きな寄付をしました。今迄はこんなことなかったのですが恐らく終戦を予感していたのではなかったかと思います。また父はトヨハマにお祖父さんと植えた桜の木を五月頃見に行っています。父の死は六月、きしくも私はこの木を売って戦後の日本での厳しい生活送ることができました。

戦後は横浜の叔父さんの家に移りました。
ここから学校に通いましたがラッシュ時には降りられなかったことも多くやっと渋谷でおりることができましたが学校には行きませんでした。
終戦後も青山氏はビトンに残っていました。会社の再興をやっていたと思います。
本当に筍生活でした。学校は東京であったため横浜から通いました。
１４歳の時、トヨハマー三重県に行きました。（お祖父さん、おばあさん）の所です。
トヨハマ中学に三年間位通いました。
父の恩師は教え子の中にどうにもならない生徒が二人居た。一人は父の大岩ですが
二人とものものになったと言ってくれました。
その後また横浜の叔父の家に移り、鉄工所の手伝い、パン屋、運転手といろいろな仕事をしてくら下。どの仕事もきつくつらかった。アメリカ軍関係の仕事をしたときアメリカは人間を大切にするということを知った。
日本では、三重県の方や 叔父さんが新子安で鉄工所をやっていた関係からお世話になりました。第二次大戦中のことは日本にいたためビトン地区のことは良くわからないとのことです。
インドネシアへの帰国手続きに三ヶ月要した。日本からメナードに問い合わせした事から。チャイナーナビケーションの貨物船に乗船、ウジュンバンダンで下船。この時父を覚えていてくれたインドネシア人将校に助けられメナードまでスムースに帰る事ができた。
１９５２年　日本からメナードに戻る お母さんからの帰ってくるようにとの要望が強くあったため。母は生活のために土地などは全て手放しほんとうに貧乏な生活をしていた。最初に働いたのはコプラ集荷船のポートエンジニアであったインドネシア語は忘れていましたが三ヶ月位で何とか判るようになった。
１９５７年　ビトンに移り住み エンジニアとして働く　その他
１９９１年　鰹一本釣り漁船を購入　漁船経営スタート
現在は一本釣り二隻、パジェコ船を子供たちと経営。今年、しかし久しぶりに漁価が良いので経営状態は楽になったしかし、まだ メガ（華僑、地元大手水産会社から建造資金のローンが残っている。今年になり返済が遅れた為船を差し押さえられた。
ビトン地区の鰹一本釣りは現在、２５隻。1970年ころは38隻あった。
日本で学んだエンジニアのことがこちらでも一家を支えた。
日本人との関係はニチロの母船式買い付けの現地での手伝いや拿捕された漁船の通訳、船員のお世話をしてきたがある船主に泣き付かれ仕込み資金を貸したが今迄に一円の返済も無い。船主になってから同業者の修理はやっていない。問題になるといけないから。日本から帰ってからのギャップはあまり感じなかった。
人間に対する好き嫌いは激しい。嫌いになれば話もしたくない。
若い頃は浪曲は嫌いであったがいまは好き。食べ物では納豆が好きであったが今は嫌い。野菜は今はすきですと。音楽はクラシックがすきと――。

読書は大好きで沢山あった日本の本は貸してやったが帰ってこない。今回トミーさんの依頼で「坂の上の雲」司馬遼太郎を手配することにした。古典も読みこなすのには吃驚してしまいました。
家族関係
妻（シャンゲル人）子供６名　　長男 クラバット大学卒業後家業の漁船経営
長女 サムラトラギ　同
次女　　同
三女　　同　　ユリ
四女　　同　　フミコ
次男　　同　　建築

父と関係がある工場はすべて爆撃された。
日本での事務所は東京駅の近くにあった。
東印度水産会社は戦後オランダーインドネシアに没収される。
フイツシレイ　水産と呼んでいた。
ペリカニ　（公社）　現在の場所は戦時中は日本海軍の水上機基地であった

在留日本人はオーストラリアに抑留された。４－５名
日本人は全員返された。ギリアン付近で自給自足の生活を送りながら
輸送船を待った。

父の事。常に狭い日本から南に出たいと憧れていた。仕事は非常に情熱的であったが女性関係は発展家であった。母との喧嘩は女性の事が多かった。
ドリアンは嫌いであった。
ここで一般的に言われている事は日本人は大金持と言う事。
日本人は牛を買うがヨーロッパ人は肉を買う――つまり日本人はすぐに現地妻として結婚してしまうがかの人達は浮気だけということ。これは今回の金融危機と同じことですね。日本企業は長期投資、一方彼らは短期投資のみでしたね。
イスラム教は第一の夫人の許可があれば第二、第三――――――とＯＫ
キリスト教は遠い所であれば許される。経済的に余裕があれば隠れてやる。
特に二号に対する偏見は日本ほど激しくない。周りが白い目でみることは無いと。
日本人にとってこんなにも簡単に現地妻を娶れるところは世界にここだけではないでしょうか。――これは私の感想。

［戦後の鰹節工場と現状について］は次回に掲載します。

＝高校日本語教育支援＝

国際交流基金ジャカルタ日本文化センター
青年日本語教師（SNK）
家田章子

青年日本語教師派遣事業の概要

私は、交際交流基金の「青年日本語教師派遣事業」で青年日本語教師として1997年5月からインドネシアに派遣されています。「青年日本語教師派遣事業」というは、海外で高まってきている日本語学習熱に応えるために平成2年度からを実施されたもので、欧州、 大洋州および東南アジアに日本語教師を派遣するプログラムです。

現在派遣されている国には、インドネシアのほかに、タイ、マレーシア、オーストラリア、イギリス、ドイツ、フランスがあります。よく、青年海外協力隊と間違えられてしまいますが、協力隊は国際協力事業団（JICA）のボランティア事業で、国際交流基金の青年日本語教師派遣事業とは異なります。

派遣される国によって、大学、政府機関、高校など派遣先はまちまちですが、インドネシアの場合は、中等教育機関への派遣ということで、インドネシア側の機関である教育文化省PPPG Bahasa（語学教員研修所）と協議の上、現在は普通高校(SMU)に派遣されています。インドネシアへの派遣が始まったのは、平成7年度からです。初代の青年日本語教師は、どんな支援をしていくかを自分で考えて活動しなければならず、かなり大変だったそうです。まず、この事業を認識してもらわなければ！！ということで、「せいねんにほんごきょうし」では、長すぎて覚えてもらえないので、インドネシア語のシンカタンをお手本に

『Seinen Nihongo Kyoushi』→『SNK（ｴｽ･ｴﾇ･ｶｰ）』

という呼び名を考て、SNKプログラムの紹介パンフレットも作り、各地域で活動をしてきました。来年度からは、観光高校(SMK)への支援準備も開始する予定です。

普通高校での日本語教育

SNK（ｴｽ･ｴﾇ･ｶｰ）がどんな活動をしているかをご紹介する前に、普通高校での日本語教育の概要をご紹介したいと思います。

インドネシアの普通高校は1994年に新しいカリキュラムが作成され、1996/97年度から施行されました。新カリキュラムでは３年生で３つの専攻（理科系、社会系、語学系）に別れるのですが、日本語を正課で学習できるのは高校３年生の語学系のみです。日本語は、語学系の選択必修科目である第２外国語のひとつとして教えられます。高校で教えられている第二外国語には、ドイツ語、フランス語、アラビア語、日本語がありますが、実際には各校でこの全てが教えられているわけではなく、該当語学の教師の有無、校長裁量などによりこのうちの一つか二つが開設されるのが普通です。第二外国語は週９コマ（１コマ40分または45分）で、年間280時間の学習時間が設定されています。この正課の授業以外にも、高校で行なわれている日本語教育には、クラブ活動的な「課外授業」、校長裁量で授業時間に組み込まれる「課内授業」、教室を貸し民間学校と同じレベルの日本語講座を行なう「講座」があります。

新カリキュラムでは、語学系の日本語の授業は年間９つのテーマに沿って授業を進めます。

文字を教えなければならい、コミュニケーションを重視した教授法でで授業を進めなければならないなど、現場の教師にとっては負担の大きな指示がされています。新カリキュラムが施行され、様々な変更があったものの、まだ新カリキュラムに準拠した教科書もなく現場の教師は教材の不足と教授法についての情報不足に悩まされているのが現状です。インドネシア人教師、国際交流基金の派遣専門家、青年日本語教師で作成した日本語学習書（教室活動集）が、今のところ唯一の新カリキュラムにそった教材となっています。

青年日本語教師（SNK）の活動内容

では、このようなシステムの中で、SNK（ｴｽ･ｴﾇ･ｶｰ）は、いったいどんな活動をしているのか？ということになりますが、業務を大きく分けると４つあります。

（1）２～３校の配属校での授業
（2）高校教師会、学校訪問等を通じて配属地域の教師を支援
（3）高校教師会、学校訪問等を通じて配属地域の情報を収集
（4）インストラクター候補研修や教材作成合宿への講師参加

まず(1）ですが、生徒にとってはやりネイティブスピーカーから日本語を学べるというのは、とっても有効な動機づけになります。そして、日本語教師にとっては日本人の行う日本語の授業を見ることにより、より良い授業を目指すきっかけとしてもらおうということです。単なるマンパワーとして入るのはなく、日本人教師が授業をするときは、インドネシア人教師が見学し、インドネシア人教師が授業をするときは、日本人教師が見学するという、スタイルを採っています。毎回、授業の後で反省会をします。

次に、(2)ですが、配属校はたった数校ですから地域全体を支援するためには配属校での授業以外にも活動を行わなければなりません。一つの方法として、学校訪問を行っています。日本人を見たこともないけど、日本語と勉強しているという高校生たちがたくさんいます。『生の』日本人と会って話をすること、授業を受けることはとても刺激になります。また、インドネシア人教師の授業の実際を見学することによって、その教師に適した指導をしたり、抱えている問題の相談に乗ったりすることができます。

もう一つの方法は、高校教師会（MGMP(ｴﾑ･ｹﾞｰ･ｴﾑ･ﾍﾟｰ)）に講師参加して、支援をすることです。この教師会は、各科目で必ずあるべきもので、各科目の教師が集まって勉強会をしたり、授業計画をいっしょに立てたりするものです。インドネシア人教師の多くが抱えている悩みに、コミュニケーションを重視した教授法がどういうものか分からないというものがあります。教師会では教え方を指導したり、日本語そのものの質問に答えたりししています。

(3)は、いわゆる情報収集です。日本なら、どの高校でどの外国語が教えられているのか、教育委員会などに行けば、リストになって資料が保存されているように思うのですが、インドネシアではそうはいきません。日本語教育の支援事業なのですから、インドネシアの高校でどのような日本語教育が行われているのかを知らずには、支援計画も立てられないというのは当たり前のことです。日本の文部省にあたる教育文化省では、情報を集中管理していないのに加えて、組織的な調査を行ったという情報についても、漏れがたくさんあったり、データが古かったりと、現状を反映したデータがどこにもないというのが現状です。そうなれば、足を使って

調査をするしかないということになります。これまでSNK（ｴｽ・ｴﾇ・ｶｰ）が集めたデータは、ジャカルタにある国際交流基金ジャカルタ日本文化センターのコンピュータで一括管理しています。実際のところ、インドネシア側が持っている情報よりも、この情報の方が正確＆新しいというのが現状です。

最後に(4)です。インストラクターというのは、地域の教師を指導できる『教師の教師』という立場に立つ人のことです。本来各教科に必ずいるものなのですが、日本語に関しては、まだインストラクター候補しかいないので、彼らの研修を行い将来インストラクターとして高校日本語教育を引っ張っていってもらおうという取り組みがあります。そこに講師として参加するのも、SNK（ｴｽ・ｴﾇ・ｶｰ）の役割です。また、新しいカリキュラムに沿った教材を作成するためにインドネシア人教師と協力していくのですが、その教材作成の合宿にも、講師として参加します。「青年」と言えども、ベテランのインドネシア人教師を指導する立場ということで、しっかりと勉強＆前準備をして研修や合宿に臨んでいます。

青年日本語教師（SNK）の活動地域＆派遣人数

さて、では何人のSNK（ｴｽ・ｴﾇ・ｶｰ）が派遣されているのかということになりますが、毎年２名ずつ、基本的に２年の任期で派遣され、常時４名が活動しています。

派遣年度	新規SNK	SNK	派遣地
1995	１名	１名	ジャボタベック（Jakarta, Bogor, Tangerang, Bekasi）
1996	２名	３名	ジャボタベック、バリ、スラバヤ
1997	２名	４名	ジャボタベック、バリ、バンドン、マナド
1998	２名	４名	バリ、スラバヤ、メダン、マナド
1999	なし注	４名	ジャボタベック、バリ、メダン、マナド

注1997年度派遣者２名が任期を延長したため。

たった4人でこの広い国土を網羅するのは難しい！！と感じられることと思います。まさにその通りで、インドネシア全体の状況を把握し、支援していくためには、毎年派遣地域を変えて活動しなければなりません。そうすると、派遣地の状況を把握し、人とのつながりもできたと思ったところで配置替えという非常に残念なことが起きます。私も1年目のジャボタベックからマナドへの配置替えとなりましたが、２、３年目は２年連続でマナドの派遣が決定し、腰を落ち着けてじっくりと取り組めるので、非常に嬉しく思います。

インドネシアの青年日本語教師プログラムも今年度５年目に入ります。インドネシアと言っても、その地方地方によって日本語教育の状況、抱えている問題等もまちまちです。しかし、決して恵まれているとは言えない環境で、一生懸命学んでいる生徒たち、そして教師の熱意はどの地域でも共通しています。自分自身が去った後も、現地の教師に何かが残るような支援をしてきたいと、各地の青年日本語教師と決意を新たにしています。

スラウエシ島の歴史と民族

－ 北スラウエシ ミナハサ －

庵　浪人（イオリ・ナミオ）

E-mail: ps7t-ihr@asahi-net.or.jp

http://www.eternal-star.co.jp/wakita/up/minzoku3.html

箱庭の町

北の岬回廊の東端チップがプロテスタント・ミナハサ州で共和国最北に位置します。飛行機が右に旋回すると、眼下に蒼く愛らしいマナド湾と乳房のようなマナドトウア山が浮かび、緑の深い森に点在する白い家並み、このサムラトランギ空港が2000 m のクラバット山をかわす難しいアプローチだとゆうのを忘れさせてくれます。左にゴルフリンクを見ながら港町特有の坂道を下れば、小さい広場に町の騒音が流れてこれも小さい乗合バスがひしめき、ちょうどガリバー物語の国に降り立った錯覚を覚えます。マナドは可愛いい箱庭の町なのです。

“私達は(ジャワとは)違うのよ”とオランダ第12番目の州を自任して、この間までまともな家庭はオランダ語を常用し、サロン腰巻きをしたがらず、男はソフト帽女はレースで着飾って日曜ミサを欠かさない植民が最も成功した地域で、植民地時代に多くマナド人がオランダ中間行政官に登用され、南のマカッサル・ブギス人から「太平洋の水ぜんぶ飲んでもお前の血は変わらない。ブランダ(オランダ)の犬」とまで罵られてもオランダ流に憧れたのも、ミナハサ族がおおらかで楽天的性格を生む豊かな自然環境があったからかもしれません。マナド娘は共和国最高の色白美人とつとに名があるのは、長い外国混血のなせる技で、それは長大な半島が大洋を二分して海原に突き出ている土地ですから、西洋人が渡来する以前も、香料や南海産物を求める華人商人の海上航路の拠点として多くの人々が往来し、ミナハサの人達の姿を見ればマレー人とは異なる血が歴然としています。

トルデシャス条約（注1）で地球を二分したイスパニアとポルトガルはスパイスを求めて西と東からこの地域に殺到し、フィリピンから南下したイスパニアがミナハサに侵入しました。香料諸島テルナテ、テイドレは此処から眼と鼻の先だったからです。

ある期間の横暴に耐えたマナド人達は、力を付けた新興勢力オランダに助けを求め、1673年にロッテルダム要塞を造り(日本軍の爆撃で焼失)、VOC(オランダ東インド)の庇護をうけることになったのです。以後の親蘭は変わらず、植民地反乱リーダー達イマン・ボンジョルなどはこの地に流刑になったのです。ジャワを追放されてこの地に流されたデイポネゴロ王子に従ったジャワ人達(1830年)の子孫はいまもカンポン・ジャワ村に暮らし、宮廷人の優雅さとマナドの西欧風が巧みに融和して最高の女性といわれているのもそれなりの理由があるようです。オランダは殖産に力を注ぎ、独立時ここには千人の児童にひとつの学校がありましたが、ジャワのそれは五万人だったのをみても、独立後半世紀でその格差が解消できるとは思えず、彼等がジャワや他の地域の人に対し知的優越感を持っているのが感じられます。

共和国一の教育医療環境

マナド人はラマイラマイ(お祭り)好きで見栄っ張りで身上を潰すと陰口も聞かれますが、マナド人は遊ぶお金もない人の僻みと意にも介しません。ミナハサは現在は輸送交通環境の変貌で低迷していますが、それでも共和国一の教育医療環境を保持して今もって一番の富裕県なのです。なんといってもコプラ油脂、チェンケ(丁子)、ゴム林、コーヒー、米、野菜などないものはない豊かな土地だからです。チェンケ市場が暴騰した時、テイノール村は景気に沸き立ち、電気もないのにGEの電気冷蔵庫を庭先に飾って見栄を張ったといいます。

太平洋戦争でダバオを飛び立った日本軍は、マナド・トンダノ飛行場に落下傘降下し激戦の後制圧し、空の神兵とゆう歌まで唄われた時代、兵士との混血児もスマトラアチェより多いのはこの地方の寛容さを物語るのではないでしょうか。

マナドぼけの日本人は多く、マナドはミナト、ミナハサは皆様、トンダノトンシェトモホンの村名のトンは村人、東のゴロンタロは五郎太郎入植の地と日本との関連をなんとか結び付けたい気風がある程、大和撫子に見まがう美女も希ではありません。マナド人がオランダの犬でなかった証拠に、植民地時代の民族主義の知的指導者サムラトランギを生み、統一国家実現に貢献しました。

共和国の腫れ物の華僑同化問題でもこの地は昔から融和していて、マナドチナと呼ばれて違和感がないのも土地柄でしょう。マナドの街もスパイスナッツのチェンケ時期には一帯がえもいわれぬ香気に覆われ、コリンタン木琴の音もまことにに女性的で、西からひしひしと寄せるイスラム圏から訪れると行き交う人々、チャペルの鐘の音、なぜかほっとさせる気分になります。

狭い岬には港町特有の坂道に花が乱れ咲き、肥えた馬車の鈴の音、ドウアスダラ、タンココ、バトウアングス、グヌンアンバン、ドウモガボネなど自然保護区は共和国一、山頂湖トンダノ(標高600 m)とあわせて公園の中に住む趣き、町内のロコン火山や郊外のソプタンは時に噴火(1986・89)しても随所の温泉の湯気で帳消しになるようです。

ブトン港

ブトン港は水深、良水で対岸のレンベ島が風を遮り、浅瀬だらけの南海では最上の船溜りで、イスラムではなく飲酒は自由、美女が侍れば船員には忘れない港でしょう。列島では聞けない自作トランペットをマリアッチ風に吹く祭りに、彼等自身も忘れ去ったスペインの残映を見て、外来文化受け入れに何の抵抗もなくデイスコもダンドウットとロックしか聞けず、すばらしい韻を踏んで優雅に唄われる地歌の消滅した速さでこの小民族文化も消えてしまうだろうと大きな不安があります。

マナドの20万人も外来人で純血は減少しているらしく、なにか華奢で壊れ易い箱庭都市の姿に見えます。箱庭の岬は何処に行くのにも車で半日もかからず、砂浜で火照った身体は少し丘を登れば涼風吹く高原で、住民のホスピタリテイも含め観光ポテンシャルは高いと予感されます。マナドでは蝙蝠や犬、椰子鼠までおいしく料理しますが、それもエスニックフッドになるでしょうか。

世界有数のドロップオフ

アメリカでの医学留学を終えたドクトルバトウナは、郷里に広がる珊瑚礁を初めて紹介したのが世界有数のドロップオフを持つブナケンリーフで、ダイバー仲間では"ブナケンを潜らずダイビングを語るなかれ"と言われる程のスポットになりました。マナド沖に富士山ミニチュアのように海上に聳えるマナドトウアとマンテハゲに囲まれるブナケンは、町と指呼の間にありイスタナドウユン(竜宮城)もかくやの美しさです。マナド人は「ブナケンも数あるもののひとつ」といって驚きもしないのは、複雑な海岸線を持つ岬の至る所に小島や入り江が散在する'箱庭'なのです。土地はまだ観光ダイビングはなく潜水漁法の時代ですが、素潜りでも欲しいだけの魚は簡単に手に入れられます。夢のような、、がぴったりのミナハサなのです。

山上湖トンダノから少し入った山の麓にワトウ・ピナベテンガンの霊岩が鎮座します。少し昔に一人の農夫がお告げを受けて、ロットレ(数字当て富籤)を当て続け、それを元手にマカオに繰り出し胴元を破産させて凱旋し連日新聞に書き立てられました。挙げ句自分の死期も予言して、あぶく銭をすべて教会に寄進して予告通りそうなった逸話から、この存在感のある巨岩の信者たちの幸運がしばらく続いたので　　す。政府高官もしばしば卦を立てに訪れるそうで、もしかしたら夢は珊瑚礁だけではないようです。

シアウ、サンギール、タラウド諸島

マナドの北には海流の中にシアウ、サンギール、タラウド諸島がフィリピン・ミンダナウ島まで続いています。移民インド人が多く顔つきはコーカソイド的です。マナド人は広大なコプラ椰子林の管理をこの出稼ぎサンギール人にまかせて「儂の仕事は日陰で椅子に座って奴等が登って落とす椰子の実を勘定するだけサ」とうそぶいているうちに、勤勉な彼等は街に多くの商権を作っていったといいます。マナド人のパーテイ好きで怠け者、傲慢で見栄っ張りの噂は、この土地の裕福さからでた羨望も混じっているのでしょう。岬を西にゆけばボランモンゴンドウのイスラム国、バリのグヌンアグン大噴火で此処に移民した彼等が稲作を成功させただけでなく金まで発見して、里帰りは飛行機では共和国移民地ではここだけの繁栄で、町コタモバグはマスジャヤ(金の勝利)とも呼ばれます。周辺の高地は広大な野菜畑、コーヒー園、ゴム林が続き、農耕に秀でたバリやジャワ人の努力の賜物です。今は移民の多い新興地ですが、あとしばらくすると押しも押されもしない地域に発展するでしょう。

ゴロンタロ、リンボトの先

ゴロンタロ、リンボトの先は徐々に乾燥して人口希薄、長大な半島に人家まばらな最果ての地と変わってゆき、赤道を横切ってお隣りの州都パルーまで森の黒檀や鉄木などの貴樹探しの山男のほか土地の人も踏み込まない過疎が続きます。

注

1. 1494年 イスパニアとポルトガルで結ばれた海外領土分割条約で教皇子午線で両国の領地権を東西に二分した。イスパニアは東インド経営を諦らめ南アメリカに専心する。

99/02/15

国際結婚完全マニュアル（インドネシア編）PartⅡ

PT PRIMA KASHINDO
押川 裕一

皆さん今日は。私はBitung在住の 押川 裕一と申します。

タルシウス第3号では、私の結婚式の写真を掲載して皆さんに妻共々紹介していただき、どうもありがとうございました。

結婚して早くも3ヶ月が過ぎ、生活は大分落ち着いてきました。

前号で「次号では押川からの寄稿を確約」となって（笑）おりましたので前号での内田 忠茂さん投稿の 国際結婚完全マニュアルに引き続き、国際結婚完全マニュアルPartⅡと題しまして結婚準備や式、及び新居にかかった費用を大体いくら位かかったものか、大まかですが以下のようにまとめてみました。

結婚準備及び式にかかった費用

両親へ（結納金みたいなものです）	Rp	１，５００，０００
結婚指輪	Rp	１，２００，０００
両親の結婚式用の服	Rp	１，０００，０００
ウェディングドレス（レンタル・写真代込）	Rp	３，５００，０００
各種書類発行手数料（教会）	Rp	３００，０００
民事登記所手数料	Rp	２５０，０００
式場代（３５０名食事&新郎新婦一泊料金込）	Rp	１０，０００，０００
合　　計	Rp	１７，７５０，０００

次に新居の準備にかかった費用を計算してみました。

新居の準備にかかった費用

借家（１年契約、４LDK）	Rp	６，０００，０００
入居前の家修繕	Rp	２，０００，０００
テレビ（台付き）	Rp	４，０００，０００
パラボラ＆チューナー	Rp	２，０００，０００
冷蔵庫	Rp	２，５００，０００
ベッド	Rp	１，５００，０００
洋服ダンス	Rp	１，２００，０００
応接テーブル	Rp	１，０００，０００
食卓	Rp	８００，０００
鏡台	Rp	８００，０００
電気がま	Rp	５００，０００
ガス台	Rp	４００，０００
扇風機	Rp	３００，０００
カーテン（３組）	Rp	５００，０００
調理器具等の小物類	Rp	５００，０００
合　　計	Rp	２４，０００，０００

結婚準備及び式にかかった費用と合計すると……Rp４１，７５０，０００

私の場合では、大体このくらいの金額がかかった計算になります。

￥１＝Rp７０として約６０万円です。とは言っても選ぶ家や揃える家具などはピンきりですので……参考までにして頂けたら幸いです。

次ページに、１ヶ月あたりの生活費を計算してみます。

生活費（1ヶ月当り）

飲料水（AQUA）	Rp	２６，０００
ガス（LPG）	Rp	１５，０００
電気（PLN）	Rp	６，０００
生活水	Rp	５，０００
電話	Rp	１５０，０００
食費	Rp	６５０，０００
合　　計	Rp	８５２，０００

食費が結構かかっていますが、これは輸入品を買っているためです。
GELAELに行った時にカードで買い物をしてしまうのがひびいています。
なんだかんだと贅沢品を買ってしまって、実際はもっとかかっているような気がします。輸入品を控えてパサールで買えば、もっと食費は節約できますね。
でも、日本円に換算したら￥１＝Rp７０として１万円ちょっとなんですよね・・
電気代や水道代なんてタダみたいなもんですよ、驚きです！！
結婚式&新居にかかった費用も６０万円以下でした。あらためて驚きました。
日本でこれだけの結婚式をして、新生活を始めたら多分ウン百万円かかるのだろうなと思います。何だかとっても得した気分です。
というのも、費用が安あがりの上に、素直でかわいい嫁さんもらったからです。
な～んてのろけは置いておきまして、そろそろ紙面もなくなってきましたのでそれでは皆さんこの辺で失礼いたします。

メナドの親日家 ソンピさん

青木　次郎

メナドに住んだことのある日本人なら一度はその名を耳にしたことがあるのではないでしょうか。
威風堂々として眼光鋭く、一見威圧感を感ずるご仁ですが、お付き合いをしてみれば実に物静かなやさしい親日家だったようです。
１９８０年頃、戦前・戦中とミナハサに事務所のあった南洋拓殖（ナンタク）の社員がメナドを訪れた時、ミナハサ地方の古い民謡と、南拓の皆さんへと次のようなメッセージを託されたものです。然し今では７０才を過ぎていると思います。
現在、どうされているのかわかりませんでしたが、２月１４日トモホンで偶然奥さんに逢ってお聞きしたら５年前に亡くなられたとの事でした。

ソンピさんの横顔

世襲主義に徹したオランダ植民地時代の話になると、悔し涙を流すソンピさん、報いられなかった政策に抗するインドネシア人の悔し涙でしょう。
日本軍のメナド進攻となるや、いち早く日本語の勉強に取り組み、日本人とみるや、街角でもノートと鉛筆を取り出す熱心さでした。
メナド市に日常会話の日本語塾が開設されるや、いち早く門を叩き、４ヵ月後には助手として日本語を教える立場になっております。
昭和１７年１０月、トモホンに南方占領地区初の公立日本語学校が設立されるや、進んで応募し、２００名中トップで合格、北セレベス日本語教員官吏養成所の生徒となっています。学内では模範生として同僚の信望を一身に集め、成績は終始首席で通しました。
卒業後再びメナド日本語学校の教員となり、終戦直後、オランダ軍の命によりバリクパパンの日本人戦犯収容所の通訳となっております。
ソンピさんは通訳時代の話になると、敗戦者の悲惨さに涙ぐむのです。通訳解除後メナドに帰り、メナド市警察署長・中学校校長を歴任、その後はメナド市・ミナハサ県の福祉関係の仕事に多忙な毎日を送っておられたとのことです。

ソンピさんからのメッセージ（１９８０年）

南拓の皆さんとお付き合いして、早４０年になります。私も６０の坂を越えましたが、元気そのものです。６人の子宝に恵まれ、賑やかな毎日を過ごしておりますが、昔ながらの貧乏生活で、どうもお金には縁がないようです。
終戦と同時にバリックパパンの日本人戦犯収容所の通訳を要請（命令）され、２年間彼地におりましたが、戦勝者のわがままと敗戦者の惨めさを嫌というほど見せつけられました。
殴る蹴るは毎日目前で行なわれ、処刑地（林の中）に連行される日本人の姿には、何時も心の中で合掌させられました。
日本人もよくインドネシア人に暴行を加える事はありましたが、オランダ人のそれはひどいものでした。
無事日本に帰られたこれらの人々の中には、私を覚えている人も多くおられることと存じます。一度お逢いして見たいなど折に触れて思い出しております。
私はクリスチャンです。神は常に私どもに愛をさとされております。この度の戦争で身内は戦死し、私自身日本人より幾度か暴行を受けておりますが、バリックパパンでもこれらの戦犯の方々に手を上げたことは一度もありません。
インドネシアは開発途上国で、いろんな点で遅れております。南拓の皆さんとも、より一層の交流を深め、儲けるだけのお付き合いで無く、真の共存共栄の線に沿って努力したいと念願しております。
今後とも宜しくお願い申し上げます。

インドネシアのまぐろ延縄漁業 (1)

長崎 節夫

I. 序章

I－1. ジャカルタ入港

１９８８年（昭和６３年）６月、私達はジャカルタ市北西部にあるジャカルタ漁港（通称ムアラベル漁港）に到着した。
はじめて見るジャカルタ漁港は、日本の資金援助で４年前、１９８４年に出来上がったということであるが、埋立造成された関連施設用地はまだ土砂むき出しのままの状態で、殺風景な港だった。

漁港の東隣りには国内航路の港があるらしく、白塗り２本マストの機帆船が出入りしているのが見えた。さらにその東向こうには外航船らしい大型の貨物船がかなりの隻数もやにかすんで見える。
あとでわかったことだが、漁港の東隣りがオランダ植民地時代のバタビア港で、現在は主に木材運搬の「ピニス」と呼ばれる帆船（機関付）のたまり場であり、その東方、大型商船が見えたのがジャカルタ商港であった。

漁港内には古いトロール漁船が３～４隻、赤錆びた日本製のトロール・マグロ延縄兼用漁船（これは実習船であった）が１隻、日本製の３００トン級まぐろ延縄漁船が４～５隻係留されていた。
港の奥の方の岸壁に、これも日本製のまだ新しい小型まぐろ延縄漁船が２隻もやっているのが見える。
この船は沖縄に本社のある三高物産関係の船で、船頭が日本人、その他乗組員はすべてインドネシア人であった。前の年（１９８７年）に１０隻の集団でバリ島ＢＥＮＯＡ港からジャカルタ漁港に根拠地を移してきたという。
その他、地元の小型網漁船が数隻見えるだけで、港内は閑散としていた。

I－2. まぐろ延縄漁業

I－2－ア 使用される漁船

一口にまぐろ延縄漁業と言ってもその形態はいろいろあり、総トン数（ＧＲＯＳＳ TONNAGE、以下ＧＴと略記する）１０トン足らずの小型漁船を使用する小規模・零細的なものから、５００ＧＴにも及ぶ大型漁船でインド洋、大西洋まで操業する大がかりなものまである。

I－2－イ 漁場

まぐろ延縄漁業の漁場は、日本の沿岸海域から太平洋、インド洋、大西洋、地中海などほとんど全世界の海洋に広がっているが、基本的には赤道を挟んだ熱帯、亜熱帯、温帯の海が主要漁場となる。
例外的に南、北緯４０～５０度の高緯度海域でもミナミマグロ、ホンマグロなどの高級まぐろを狙って操業が行なわれている。

インド洋南部（タスマニヤ沖、ケープタウン沖）、大西洋北西部（ニューファウンドランド沖）、大西洋北東部（アイルランド沖）などはその代表的な漁場だが、これら高緯度海域では気象条件が厳しく（寒冷・荒天）、大型の新鋭漁船だけが操業に耐えられる。
地中海にもホンマグロを目的として、日本のまぐろ延縄漁船が入漁している。地中海はその名が示す通り、周囲を陸地で囲まれた池みたいな海で、その中で泳いでいるまぐろは、釣堀の中の魚に等しい。
この釣堀の四周はそれぞれ所有者（国家）のある海岸であるのだから、言わば「共同釣堀」といったところだ。それだけに資源管理＝漁獲規制も厳しく、日本漁船も入漁できる隻数を厳しく制限され、水産庁から漁業取締船を派遣して、不法漁船が出ないよう神経を使っている。

Ｉ－２－ウ　漁獲される漁種

まぐろ延縄漁業で漁獲される漁種は、キハダマグロ、メバチマグロ、ミナミマグロ（ホンマグロの近似種）、ホンマグロ、ビンナガマグロなどのマグロ類の他に、マカジキ、クロカワカジキ、シロカワカジキ、メカジキなどのカジキ類がある。
サメも生産品目に入る。サメ類で捕獲数の多いのはヨシキリザメである。
日本の小型まぐろ漁船の場合、通常捕獲されたサメの鰭だけを切離し、胴体は放棄する。
小型のまぐろ漁船は漁艙スペースが小さく、サメなど“外道”の魚を持ち帰るほどの余裕がない。
また、上に挙げた漁種が、どの漁場でもまんべんなく釣れるという訳でもない。
漁場によって混合率が異なり、同一漁場でも時期によって変化していく。

インドネシア海域では、太平洋側（イリアン・ジャヤ北方）、インド洋側（バリ、ジャワ島、スマトラ島南方）、バンダ海、セレベス海とも、キハダマグロ、メバチマグロが漁獲の中心で、クロカワカジキ、シロカワカジキ、メカジキ、ビンナガマグロが多少混獲される。

Ｉ－２－エ　船上での保存方法

まぐろ延縄漁業は、釣り上げた魚の船上での処理保存方法によって、ａ．生鮮（ナマ）まぐろ操業、ｂ．凍結（冷凍）まぐろ操業、そして僅かではあるが、ｃ．生鮮・凍結混合操業、に分けられる。
業界内部ではそれぞれの漁船を「なまぶね」、「凍結船」と称している。

生鮮まぐろは、刺身、鮨など生食用を第一の目的として生産されている。生鮮まぐろの市場価格は、その日の需給状況によって大きく動くが、同じ日に同じ市場に並べられた同一種ならば、鮮度（イキの良さ）がセリ値を左右する。
魚というのは釣針に掛かったその瞬間から、鮮度の低下（＝肉質の劣化）が始まる。
鮮度低下のスピードを緩めるために、氷や冷水を使って魚体を冷やしたり、零下６０度もの冷風を吹きつけて漁体を凍らせたりするのである。
漁体をそれで凍る寸前まで冷却して、そのままの状態で（凍らすことなく）持ち帰るが、ナマまぐろの操業である。

さて、魚は冷やした、といってもそれで鮮度低下の進行が止まった訳ではない。
キハダマグロ、メバチマグロを生食に耐える状態で市場に並べられるのは、釣り上げてから長くても２０日以内と思えばよい。できれば昨日獲れたまぐろを今朝のセリ市に並べたいところだ。
というわけで、生鮮まぐろの操業を行なうには、港から漁場までの距離、操業を継続できる日数が限られてくる。従って船型もやたらに大きくすることはできず、現在日本の港からミクロネシア海域まで遠出する「ナマ船」は、１９ＧＴ型が主力、大きくても５９ＧＴ型以下の漁船である。
しかし、操業期間が限られていても、小型の漁船としてはコスト面でこの方式（ナマ操業）が有利であり、また刺身、鮨など生食する場合の食味は、冷凍し解凍された魚肉よりも生鮮魚肉の方が旨味があって、ナマまぐろにはそれなりの需要がある。
そのような理由から、鮮度（＝品質）の良い魚を高値で売る、というのが、日本の小型まぐろ延縄漁船の操業の基本テーマになっている。

まぐろ延縄漁業は、発展の経過ということで見るならば、小型漁船による生鮮（ナマ）操業は初期（又は前期）段階の技術であり、漸次、漁船の大型化、冷凍まぐろ操業へと発展してきた。
漁船用推進機関（焼玉式エンジンからディーゼル・エンジンへ）、冷凍装置（アンモニア冷媒からフレオンへ。コンプレッサー性能の発達）、航海援助計器類の発達、普及、そしてこれらを総括した造船技術の発達は、日本のまぐろ延縄漁船を沿岸・近海の漁場から、遠洋、全地球規模の漁場へと拡散させた。
特に、漁体を冷凍することによってまぐろを長期間、船内に貯蔵できるような技術の発達はまぐろ延縄漁船の長期操業を可能にし、より広範囲に渡って稼働するするようになった。
小型のナマ船の「質で勝負」のテーマに対して、冷凍漁船では「量で勝負」ということになり、漁船の大型化が進んだ。
１９５０年代末から、６０年代始め頃のまぐろ延縄漁業隆盛期には、１０００ＧＴ以上の大型漁船に数隻の小型漁船を積載して漁場まで運び、母船式操業を行なう「搭載型まぐろ延縄漁船」というのまで出現した。

しかしこの方式による操業は長続きせず、１９７０年代始めには姿を消している。時代の推移と共に、大型の冷凍漁船も資源量の減少によって、漁獲量だけで勝負、という訳にもいかなくなり、近年は「質で勝負」の要素が大きくなった。

冷凍まぐろ漁船は、当初、マイナス２０℃～３０℃で魚を冷凍保蔵していたのが、冷凍装置の性能向上で次第に温度が低くなり、１９７０年代終わり頃から、マイナス５０℃以下の低温で冷凍保蔵する、いわゆる「超低温船」が出現した。

現在の冷凍まぐろ漁船は全てこの「超低温船」である。

しかし、同じ超低温船だからと言って、全ての漁船のまぐろが同じ値で売られる訳ではない。　冷凍まぐろの市場価格は魚種によって異なるし、同じ魚種でも泳いでいた場所によって、身質、脂ののり具合などの違いから、値も違ってくる。

また、同じ場所で泳いでいた同じ魚種、例えばバンダ海のメバチマグロでも、漁船の処理能力とか製品管理（温度管理）の違いなどによって、商品価値が違ってくる。

漁船乗組員としては毎日の作業にベストを尽くさざるを得ないところである。

Ｉ－３　空輸まぐろ

前項で、小型漁船による生鮮魚操業はまぐろ延縄漁業の発展段階で見るならば初期の、云々・・と述べたが、冷凍漁船が冷凍漁船が世界の海を押し渡るようになったからと言って、小型のナマ船が消えた訳ではない。ナマはナマなりに、漁船技術や操業スタイルの革新を行ないながら生きている。

漁船技術のうち、最も重要な革新事項は、漁船建造素材が従来の「木材」から「Ｅ．Ｒ．Ｐ．（強化プラスチック）」に替わったことである。

Ｅ．Ｒ．Ｐ．製漁船を使うことによって、いろいろな意味から経営コストがかなり低減した。

その他、推進機関の発達、通信機器、レーダー、Ｇ．Ｐ．Ｓ．などの航法援助機器の性能向上、小型化などで航海の安全性が飛躍的に向上した。

油圧駆動機器の発達は、揚縄、投縄などの魚撈作業の省力化につながった。しかしこれは、省人化につながり、コスト削減にはなったが、乗組員１人当の作業量軽減（本当の意味の省力化）になったかどうか疑問である。

「操業スタイルの革新」というのは、航空貨物便の普及によって、漁獲物の輸送に空輸便が利用できるようになり、ナマ漁船が操業の根拠地を漁場に近い外国の港に移したということである。

日本の港から例えばミクロネシア海域に出漁する小型の生鮮まぐろ漁船の場合、漁場までの航海に７～１０日を要する。往復で２週間から２０日。ひと航海のうち実際に延縄を仕掛けてまぐろを釣る日数が１５日から最高でも２０日。要するにひと航海のうち半分の日時は漁場往復のために走航していることになる。

根拠地を漁場に近いグァム島やパラオ、トラック、ポナペなどに移すことによって燃料使用量と日数のロスを減らすことができる。また、外国の港を根拠地とすることによって、フィリピンやインドネシアの乗組員を雇用することができ、日本では慢性化していた船員不足の問題を解消することができた。

漁場に近い港でナマまぐろを陸揚して、後は航空機に運んでもらう。

現在では当たり前のこととなって、沖縄、宮崎、高知など太平洋沿いの港から小型まぐろ漁船が気軽にグァム島などに出かけ、およそ１年位の期間日本の港に帰らずに操業を続けるようになった。

まぐろはジャンボ機に乗って成田や関空などに到着する。東京国際空港は成田漁港とも呼ばれるようになり、今やナマまぐろの水揚量（取扱量）は日本一だという。

飛んでくるまぐろは、ほとんど世界中からやってくる。インドネシアはもちろん、ニュージーランド、オーストラリア、中南米、南アフリカ、地中海諸国、ＵＳＡ。日本の漁船が釣ったまぐろはその中の数パーセントに過ぎない。

また、延縄によって獲られた魚だけでなく、フィリピンのカヌーによって一本釣で釣ったまぐろもある。フィリピンのミンダナオ島は日本向け空輸まぐろの発祥の地である。

また、地中海で定置網によって獲れたホンマグロもある。養殖されたホンマグロもある。

今この瞬間にも、何千万トンというまぐろが日本に向けて空を飛んでいる。

【以下、次号に続く。】

MINANGA－RAFTING（川下り）

川口 博康

１月３日、かねてよりトライしたくてうずうずしていた川下りの決行日、メンバーは男子４名一女子２名。ガイドブックには最適年齢６－６０才とある、私はぎりぎりである。たまたま正月をこちらで過ごすことになった家内を誘い出すことに成功。
心配した天気は曇り一雨、しかし川下りは河の水が多いほど楽しい事はＢＡＬＩで経験済み。
０９：３０ 集合場所である鹿島一西村所長宅をキジャン２台にて出発。
花の町一トモホン、美人の町一ソンダル、大工の町一レイレム（この前ハビビ大統領もわざわざきたところ）などを通過、田園風景も悪くないなあと感心しているうちに険しい凄い道に突入、二つの大きな滝を左手にみながら今日の目的のミナンガ川の濁流がジャングル越しに散見される。
１０：３０ 出発点であるＴＩＭＢＵＫＡＲ村の橋の袂の小屋に到着。すでにボートはスタンバイされており最終点検中。さっそく今日のキャプテンから号令一オールさばき一川に落ちた時、その他いろいろとレクチャーを受ける。このあたりから少し緊張してくる。いよいよヘルメット一救命ジャケット着用完了。保険は今日の費用に含まれていると言うことだが大丈夫なのか。もしかしてこれが最後かと弱気になりながら全員で記念撮影、少し顔がこわばる。
編成は、
一隻のボートに我々メンバーが３名とキャプテンとクリュー２名の合計６名×二隻
他に、レスキュー隊（一隻に６名×二隻＝１２名）　総合計２４名
緊急医療薬、飲み水一アクア三本、緊急空気入れ一手動　カメラ×二台
着替えは下の終了地点まで車で運んでくれるとのことで移す。
１０：４５　いよいよ乗船、キャプテンの前へ一ＭＡＪＵの号令に従い元気一杯岸を離れる。幸いにも雨も止み、滑り出しは上々。昨夜から続いた大雨で川は結構な水量雨を気にして濡れるのを気にしていた家内も、すぐに激しい濁流にもまれ水飛沫を頭から被りびしょ濡れ。キャプテンの号令なんか真面目に聞いてパドルなんか動かしていたら体が放り出されてしまう。時々、岩と正面衝突、必死で命綱を握りしめる。
ぶっつかるのは岩ばかりではない。うっそうと茂るジャングルの巨木が時に川に横だおしになってこの下をくぐらねばならない。ボートをあやつるなんて事はとんでもない。ただひたすら濁流に身をまかせて必死にしがみついているのがやっと。
レスキュー隊は危険な所にくると先回りしてスタンバイしてくれている。結構安全には気を配っている。
危険な個所を無事通過すると乗船者全員でパドル立て一次に何回も水面に叩き付けて「ビンゴービンゴー」の掛け声で喜びを表現する。つい乗ってしまい声が嗄れてしまう

一時間位下ったろうか。地酒ーヤシ酒ーチャプテックの蒸留小屋を見学のため上陸。
凄い、密造酒なのだろうか、蒸留の装置が凄い、数千年も昔にタイムスリップして
しまったような感じ。少し飲ませてもらう、旨いーー町に売っているものなんかより
はるかに胸にこたえる。たったこれだけの装置でこれだけの味を出せるのに凄く興奮
してしまう。家内に飲みすぎて川にでも落ちてのことを心配されほどほどにする。
こんなサービス、インドネシアでしか味合えない醍醐味なのでしょうね。感謝感激。
おそらくこのジャングルまでは経済危機やリストラなんてお起ようがないでしょうね。
同じミナハサ県にこんな生活をしている人達がいたとわ。まさにここはインドネシア
である事を実感する。　　：
ここから３０－４０分下ったところで一服。岸の小さな瀬にボートをつけ暖かい飲み物
とケーキが出る。家内はこの時のカプチーノの味が忘れられないといって今もってその
ファンになっています。乾いた喉とびしょ濡れの体には旨かった。これも計算された
パフォーマンスなのだろうか。
レスキュー隊はボートの点検ー空気の補給など結構訓練されているところをみせてくる。
この地点で約半分と言う。ＢＡＬＩだともう終了地点。何か得した感じで後半スタート。
腹ごしらえもできこの川くだりに少し自信もでてきたのか周りの景色にも眼が止まるよ
うになってくる。今回最高の落差という難所も無事通過。「ビンゴービンゴ」で喜び合い
順調な航海が続き途中、５０ｍ位の川幅に架けられた竹でつくった橋の下を通過。
西村所長のお話ですとこの竹橋の構造はコンピューターでは作れない立派なものと。
竹の特性を生かした竹橋、日本では必要ないでしょうがここでのサバイバルには無くて
はならないものなのでしょうね。日本でこんな夢のある橋を作る会社なんてないでしょう
ね。特にスラウエシ州のトラジャ地方と日本は竹文化の共通点があることで有名。
竹取物語と似たは話があるとか。延々と続く熱帯雨林ージャングルを充分堪能する余裕も
後半やっとでてくる。
いよいよゴールというＴＡＮＫＵＮＥＹ村の橋が見えてきた。橋の上には地元の皆さんが
沢山出迎えてくれている。最後のパフォーマンスー急旋回で締めくくり
１３：４５　全員無事に最終地点にゴールインする。
着替えに使わしてもらった民家、ほんとうに素朴そのもの。囲いも何も無いところでの
マンデイと着替えは若い女性には少し可哀相か。しかし此処でしか味わえないムードです。
ここから又キジャンに乗ってこの上の町ーソンダルまで山道をよちよちと約一時間登る。
途中まだ余韻覚めない今、下ってきたばかりのＮＩＭＡＮＧＡ川を横に眺めながらまた
途中の珍しい渓谷の部落に時間を忘れ名物のイカンマス（魚料理）を食べさせてくれると
いうレストランに到着する。先ずはビールで乾杯、一時間後メインデシュであるイカン
マスがやっと運ばれてくる。どうもこの時間の感覚にはまだ馴れない。
大好物のイカンマスで腹ごしらえ、大満足したところで今日の大冒険旅行を手仕舞いする。
今年は私も年男、何か良い事がと期待していたのですが、意外に早く家内共々ビックなブレ

ゼントをインドネシアの大地から頂いたこと感謝しています。
お陰で新年は爽快な気分で過ごす事ができました。

費用：　　ＵＳＤ５０／人
スタートポイント----メナード：４０ＫＭ
ラフテング距離：　　９ＫＭ
スタート地点--終点　　１２ＫＭ
ラフテング難易度　　３

マナドの新風物詩　フィグラ祭

川井　雄二

1999年１月31日（日）、マナドの　Boulevard 海岸通りで、第２回『フィグラ』祭が盛大に行なわれ、数千人の観客の目を楽しませた。
フィグラ祭は正式名称を　Festival Karnaval Figura Manado(FKFM) II　という。簡単にいうならば、マナド版《カーニバル》である。
第１回フィグラ祭は、1998年１月28日（水）に行なわれた。初めてということ、平日であること、そして翌々日にハリラヤを迎えるラマダーン月であることなど、様々な要因であまり振わなかった。
今回はシルク・エアーを始め、シンガポールの旅行業界に積極的に売り込むなど事前の広報が行き届いており、外国人観光客も多数見かけた。
昨年参加しなかったムスリム層も加わったことなどにもより、小雨が降る悪条件にもかかわらず、非常に盛り上がり大成果を収めた。

マナド市内の各区、ミナハサやビトゥン地方から選抜されたチームは昨年の３１チームから大幅に増えて５３チームとなった。１チーム、約２０人の編成である。
午後３時半　Ir.L.H.Korahマナド市長による開会宣言の後、『 Ya Hura ! Ya Hura !』という独特の掛け声を発しながら３時間にわたりパレードが続いた。

出し物は、一般的なものと仮装ものの２種類に大別できる。
一般的なものは、普通の楽団（合唱団）、ブリキ製の管楽器による楽団、竹製の管楽器による楽団、『Cakalele』と呼ばれるミナハサ伝統の踊り、中国系住民によるバロン・サイ（獅子舞）や竜の舞などである。
ブリキ製の管楽器の演奏や『Cakalele』踊りは普段滅多に見る機会がないので、丁度いいチャンスである。しかし気になることは、演奏も踊りも実演しているのは、かなり年配の方々ばかりである。ミナハサの若者たちに果たしてこれらの伝統芸能が継承されているのか、ふと疑問に思う。
仮装ものは原則として男役と女役が入れ替わる。つまり男性が女装し、女性が男装するのである。定番として、軍人、国家公務員、新郎新婦などがある。
社会情勢を反映して、ムスリム、クリスチャン、ヒンドゥー教徒、仏教徒に扮した面々が《宗教は違っても我々は兄弟》という垂れ幕を掲げるものが多数いた。ちなみに昨年は、《Aku Cinta Rupiah　(I Love Rp.)》というスロガーンが多かった。
ミナハサ版アダムとイブのトアールとルミムットに扮した組も何組かあった。
上半身裸のトアールは女性が演ずることができず、さすがにこれだけは本物の男がトアールに扮した。観衆の爆笑を得たのは、ロッキーに扮した小柄なオバアちゃんとメガワテイ、アミン・ライス、グス・ドゥール等の革新指導者たちに扮したグループである。それぞれの特徴をよくつかんでいる。
新婦や女性公務員などに扮し女装する男性たちのほとんどは、髭剃り跡や臑毛が残る『化け物』に近いものだが、タマン・ラワンやモナスでアルバイトできそうな『美女!?』も極希に登場した。

北スラウェシの文化学者、Drs.Reiner Ointoe によると、このように大規模なものこそ今回が２回目だが、フィグラ祭自体は特に新しいものではなく、古くから各町村で既に行なわれてきている、という。いつから毎年１月末に行なう習慣になったのかは定かではないが、1930年頃には既に定着している。
フィグラ祭のルーツは、マナド湾に長期停泊したスペインの船員が行なった行事である。クリスマスや聖人、英雄の記念日にそれらの人物に扮して街中を練り歩いたのを、マナド市民が真似たのである。

まだ『フィグラ』祭を観ていない方は来年の１月末に是非ご覧になるようお勧め致します。あるいは日本人会として出場しては如何でしょうか。インドネシア人に有名な『おしん』や『忍者ハットリ』に扮したら最高に受けると思いますが...
（もちろん『おしん』役を演ずるのは男性です。）

家族主義 について　　スカルノとスハルト　白石隆著より

川口　博康

この国に駐在していますと文化の違いによるジレンマに悩まされる事が再々あります。その一つに我々の感覚では賄賂と同じにとれる行為が日常の仕事の中で公然と頻繁に出てきます．日本人からみれば賄賂としか解釈出来ない行動が一般社会生活の中にまで入り込み一つの文化にまでなっている行為の歴史的背景を白石先生は次のように解説しています。

：

スハルトは新秩序達成の為に「安定」と「開発」を国策の課題とし、その課題達成の実績によって自らを正当化してきた。
これと同時にスハルトの発案による独自の理論「家族主義」が作動してきた。
これを理解するためには、次のような事情を考えればよい。
国家が一つの機構として一元的に国民の統治を行おうとすれば、財政の一元的管理はその当然の要件であろう。もし日本で警察が勝手に財団を作ってタクシー会社、バス会社を経営し、そこからの揚がりを警察官の福利厚生の財源にした場合、間違いなくスキャンダルになるだろう。ところがインドネシアでは法務省入国管理局、陸軍戦略予備軍司令部ジャカルタ特別区政府、大統領府といった国家機関が財務省の感知せぬところで、財団の企業活動、「手数料」徴収、「寄付」などによって公然と資金を調達し、これを給与の補填、災害救助、奨学金供与、医療費補助、公務員住宅補助、政治資金などに使っている。
誰もこれを問題にしないし、ときにはこれが相互扶助の「家族的」美徳とされる。
そうしてこうした給与補填、裏資金調達の慣行は「大家族」陸軍戦略予備軍、「大家族」ジャカルタ特別区政府、「大家族」法務省入国管理局といった表現に見る通り、家族主義のイデオロギーによって正当化される。つまり一人占めすると「汚職―腐敗」になるけれども、皆で分ければ家族主義の精神にかなっていることになり、そのような相互扶助組織として国家が「大家族」あるいは「大家族」の集合体としてイメージされる。

家族主義と汚職は紙一重ではないでしょうか。
神でも其の運用には頭を悩ますでしょうね。
我々駐在する者にとってはこれら多くの異文化とどううまくやっていくかが最大の問題点と理解してます。日本人の基準でどこまでやれますか。
私はこれからも頭の痛い事がしばらく続きそうです。

マナドに来て6ヶ月です。

喜多　和

日本人会やその他の皆様、今日は。私は留学でサムラトランギ大学工学部に来て６ヶ月が経ちました。今回、タルシウス第４号では学校生活周辺について書きたいと思います。

私の学部の学生は日本の学生に比べ純粋無垢です。日本の大学であれば留学生が来たぐらいでは見向きもしませんが、学校で椅子に座り数人の友達と話していると、どんどん学生が寄ってきます。「日本語で、僕の名前のArthurってどうやって書くの？」なんて聞かれて、カタカナでアルトルと書いて渡すと「これが僕の名前！」とその紙を手に取り喜んでいます。一人にそうすれば次々に私も、僕もと２時間ぐらいカタカナの話だけで、笑いが飛び交います。後々、友達のバインダーの中その時かいた日本語をみると、大切に仕舞ってくれているんだと、私も嬉しくなります。

その他にも「誰が好き？」と良く聞かれます。いつも勉強を教えてくれる学生と噂されるぐらいならいいのですが、「誰それ？」というような学生とも噂される時があります。後で、「あ～、あの時話したあの人ね。」と思い出す事があるのですが、インドネシアの学生は細かいところまで良く見てます。

最近では、学校で一番だという優等生と噂の仲です。彼との出会いは彼が数学の問題を解いていて、「難しい問題があるけど、解いてみる？」と声を掛けられ、内心、「解けなかったら嫌だな、一応先進国から来てるしな。」と思って断ろうと思ったのですが、「見栄を張っても仕方がない、一緒に考えれば自分の勉強にもなるし」ぐらいに思い問題を解いてみたのがきっかけでした。それ以来廊下ですれ違ったり、同じ教室にいればお似合いだのなんだのとヒューヒュー冷やかされます。

大学生にもなって、何が楽しくてそんな事をするのか理解できなかったのですが、ある日、とてもかわいい女の子が「私好きな人がいるんだけど、彼は私の気持ち気付いてなくて、学校へきたら彼のこと一目見たくていつも探してるの、私どうしたらいいのかな。」なんて内容の詩を読ませてくれました。「は～、かわいい。好きな人に会えるのだったら学生生活にも華がさくんだろうな。」と思いました。　琉球大学では学部内での交流はあまりありませんが、こちらでは工学部数百人いる学生、ほとんどの名前をお互い憶えていているそうです。

日本での学生生活を思い出してみると、朝は目覚し時計に起こされ授業ギリギリに学校に着き、授業が終わればバイトに行き、バイトが終われば家に帰り疲れてそのまま寝るという生活パターンでした。とても好きな人に逢いたいなんて思う暇はありませんでしたし、バイトさえなければもっと勉強できるのにと時間が惜しかったです。学校そのものは楽しいですが、それは勉強が楽しいのであって、友達と遊んだりということはまた別の話でした。

サムラトランギ大学の授業で実験を取った事があるのですが、先生自ら分かってないんじゃないかなということが多々あり、学生は計算が合わなければ実験数値を勝手に変えてしまうしまう始末です。これじゃあ、建物の天井もいつ落ちてくるか判らないと思っています。
日本の大学もまだまだ改善するべき課題が多くあると思っていましたが、サムラトランギ大学の工学部は正直なところ学問を追求するなどとは程遠く、日本の大学と比べれば厳しく言いますが、大学と呼ぶに値しないと見ています。

サムラトランギ大学の工学部から６人の先生が日本へ留学した事があるのにあまり良くなっていないところをみると、大学そのものの教育レベルを上げようと考える先生が少ないのではないかと見ています。インドネシア全般に言える事だとは思いますが、私欲がまかり通るシステムが社会に出来上がってしまっていることネックになっているのではないでしょうか。

３月にポパレンへ２泊３日で修学旅行に行ってきました。ポパレンはマナドからアムランを越えて１時間ぐらいしたところにある海岸沿の村です。修学旅行の目的はその村で奉仕活動をすることで、こちらの学校は宗教色が強く、奉仕活動の内容も、教会の掃除・日曜学校の指導などがその中心でした。
面白いと思ったのは学校から出発する前にバスの中で、皆で無事に着くよう神様にお祈りした事です。
実はこの修学旅行、私にとって忘れがたいなんとも奇妙な出来事が起きました。２日目の夜、礼拝があったのですが、私は聞いても分からないので、行きたくないなぁと思っていたところに、調度どしゃ降りの雨が降って来て、礼拝に行かず家にいる事にしました。
夜中の９時を回ってもまだ礼拝が終わらないため、ごはんが食べられず、「お腹すいたねー。」と話していた、その時「人が倒れたー！」と４・５人にかつがれて病人が部屋に入ってきました。呼吸は荒く苦しそうでした。高校時代に同じような病状を見た事がありました。それで、こうゆうときは安静に寝かして医者を呼ぶのが一番だと思い、「お医者さん呼ばなきゃ」と言ったのですが、周りの皆は案外冷たくて「beda」と返すだけです。「なんでー、日本と違うのはわかるけど、こうやって苦しんでるのに。」と思い、「ごめんねー、頑張ってねー」と見ている事ぐらいしかできませんでした。
そのうち意識も無くなり名前を呼んでも一向に気がつく様子もなく、死んだ人のようになってしまいました。

服が濡れていたので着替えさせ、奥の部屋のベットになかせたら「さあ」といって何をし始めたかと言えばお祈りです。「こんな時に呑気にお祈りか。」とは思ったのですが、仕方ありません、彼女が呼吸しているかどうか気にしながら私も一緒になってお祈りを始めました。
暫くして礼拝が終わったのか、牧師が倒れた彼女のところに来て、
「Dalam nama Yesus Kristus」と彼女を睨みながら言うと、彼女の意識が急に取り戻りました。そのタイミングの良さは偶然ではありません。
今思い出すだけでも、私の後ろに誰かいるのではないかとぞっとする思いがします。
彼女は「暑い、暑い」と言って自分の首を絞めようとしました。
周りにいた友達は彼女のもがく体を押えようと一人は足、一人は手など、受け持っているのですが、帰ってほっといた方が楽なんじゃないかなと思うぐらい皆一生懸命でした。牧師が大きな声を出して祈ると彼女もそれに合わせて苦しさを増すようでした。それでも苦しんでいる人を目の前にして宗教がどうだこうだというより、彼女が早く楽になればいいということに神経を集中するよう努力しました。ですが、牧師がお祈りを止めると彼女ももがくのをぴったりやめ、その顔をみるとまさしく狐が取り付いた顔をしていました。目を大きく見開いて上を向いたきりで、口元は薄気味悪い笑みを浮かべていました。
この時点になると私も「やばい、しまった、助けて、これは本物だ」と思い、彼女と握っていた手を放したくなりました。私も取り付かれる勢いがありました。
私が「beda」と言われた時、その後に付け加えた言葉を思いました、「彼女には悪魔が取り付いているんだよ。」と。私は何を馬鹿な事を言っているのかと思ってあまり相手にしなかったのですが、今になって、「ほんとだ、まさしく悪魔が取り付いたという表現がぴったり合う」と思いました。
他の友達が気にしたのか、Madokaはこれ以上彼女の側にはいない方が良いと思ったらしく、その寝室から出るよう言われました。寝室から出てみるとこれまた、聖書を読んでる人、祈っている人があり、終いには皆で輪になり手をつなぎ歌を歌い、寝室から彼女の叫び声が聞こえると、あちこちに、「うおー」だの「キリスト」だのとうなり声が鳴っていました。私はどこまで皆本気かな、とちらりと周りを見渡したのですが、意識が行ってしまっていて涙を流している人までいました。

皆さんも同じ経験をされたとはおもいますが、サムラトランギの学生にとっても、私が日本で自分の宗教を何かしらない事を不思議に感じるそうです。
「日本はキリスト教徒じゃないから自殺者が多いんでしょ。やっぱり宗教は大切だよ。」などと言われるのですが、逆に日本人の私からしたらそこまで宗教を持たなくても、持たない事に対し十分満足しています。
日本の友達にこの呪いの話をしたらアホクサがられました。ですが、お互いおかしいと思って、いつまでも自分の方が良いと思っているよりは、違った考え方に対し、可能性を考慮していた方がお互い旨く行くと思います。

宗教に限らず常識と言うものはとても地域限定・期限限定だと思うのですが、あらゆる常識に対しいつまで柔軟でいられるか。学生の間にたくさんの常識に出会うのも面白いと思っています。

病気の原因、死亡率にも影響

住友銀行
東京健康管理室
内科医長 石井　賢治

肥満

肥満とはただ単に体重が重いことではなく、からだの成分としての脂肪組織が占める割合（体脂肪率）が正常以上に増加した状態をいいます。

体脂肪率の測定には特別な機械や設備が必要なため、体重過多の割合（肥満度）を測定して目安として肥満の判定をするのが普通です。

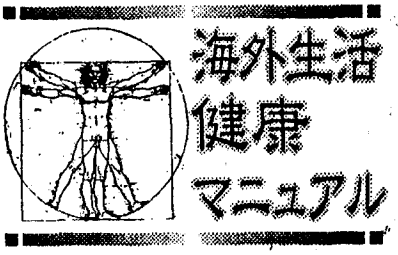
肥満度＝（実測体重－標準体重）÷標準体重×100

<ただし標準体重＝（身長－100）×0.9>とし、＋20％以上を肥満とするのが一般的です。

また、国際的には体重をkgで表し、これをmで表した身長の2乗で割ったBody Mass Index（BMI）という体格指数があり、これが26.5以上が肥満とされます。疫学的調査などから、BMIは22前後が一番病気にかかりにくく、死亡率も低いことから、身長mの2乗×22を標準体重として肥満度を算出する方法もあります。

肥満はなぜいけないのかと言いますと、肥満度が＋20％を超えると、死亡率は正常者の1.2倍、＋40％を超えると1.5倍、＋50％以上では2倍になります。また、高血圧、心疾患、脳血管障害、糖尿病、高脂血症、脂肪肝、関節疾患など、全身に様々な病気を引き起こします。健康で長生きのためには、肥満の解消が健康管理の第一歩と言えます。

次に、なぜ肥満になってしまうのかと言いますと、食べ過ぎと運動不足により、摂取エネルギーが多く、消費エネルギーが少ないために、余ったエネルギーが体内に脂肪として蓄えられてしまうからです。



特に海外勤務では、仕事上の付き合いで飲酒やカロリーの高い食事を摂取する機会も多く、交通網や治安の問題から車での移動も増え、運動不足になりがちです。

その予防や対策として、下記の項目があげられます。

①バランスのよい食事を三食とる。一食を抜いて空腹感のために間食をしたり、空腹時間が長かったりすると、からだはその時とったエネルギーをできるだけ蓄えておこうと反応してしまいます。

②摂取カロリーを考えて食べる。

③ゆっくり食べる。早く食べると、食欲にブレーキがかかる血糖の上昇前に大食してしまいます。

④味を薄めにする。味の濃いおかずは、つい主食が増えてしまいます。

⑤ながら食いをやめる。食べているという認識が乏しく、つい過食ぎみになります。

⑥飲酒や嗜好（しこう）飲料を控える。

⑦野菜を多く食べる。カロリーも低く満腹感を得やすくなります。

⑧やけ食い、やけ酒はやめる。過食症やアルコール中毒への移行も心配です。

⑨夜食はしない。夜は副交感神経が優位となり、栄養素の吸収もよく体内への蓄積の方向に進みます。

⑩運動を積極的にする。エネルギーの消費とストレス解消になります。

感染 A型以外は血液・体液で

東大病院消化器内科
講師 大西　真

肝炎

肝炎の原因となるようなウイルスには、主なものとしてA型、B型、C型肝炎ウイルスの3種類があります。

A型肝炎は経口感染症で、発展途上国へ行かれる方は非常にかかりやすい病気です。発病すると、初めは風邪と思われがちですが、そのうち発熱、黄疸（おうだん）、全身倦怠感（けんたいかん）、吐き気、嘔吐（おうと）、食欲不振、などの症状が出て、入院、安静治療が必要となります。

東南アジアや東欧、アフリカ、南米は流行地であり、飲料水や食品はA型肝炎ウイルスに汚染されている可能性があります。飲料水は加熱し、サラダや食器を洗う水も一度煮沸したものを使うことが予防になります。

欧米でも、生ガキはしばしばA型肝炎の原因となり、注意が必要です。フロリダやパリのレストランで生ガキを食べてA型肝炎になった人もいます。最近では、ワクチンで予防できるようになりました。

B型肝炎の感染経路は、輸血や注射針、あるいは性的交渉によるものが大半です。東南アジアやアフリカに感染者が多いので、輸血や注射を受ける必要がないように努め、性病にかかる機会をつくらないことが大切です。

発病すると、全身の倦怠感や黄疸などの症状が出て、入院治療が必要となります。まれに劇症肝炎となって、死亡することもあります。現在では、ワクチンで予防できるようになりました。

日本ではB型肝炎は減少していますが、B型肝炎ウイルスを持っている方（キャリアー）がおり、他人に血液や体液を介してうつす危険があります。他人に血液を触らせずに、自分で処理することが大切です。セックスを通じて他人にうつす危険は大きいので、注意が必要です。

B型肝炎の方は、時として急に悪化することがあり、過労や過度の飲酒は避け、十分な睡眠をとることが大切です。

C型肝炎は輸血や注射針で感染することが多く、B型肝炎と同様の注意が必要ですが、B型肝炎ウイルスほどの感染力はありません。症状も軽いことが多いですが、慢性化する率の高い点が、他の肝炎ウイルスと違うところです。インターフェロンという注射薬がある程度有効ですが、ワクチンはありません。

日本ではC型慢性肝炎の患者が多く、問題となっています。徐々に慢性肝炎から肝硬変、肝がんと進行していくので、C型慢性肝炎の方は、海外でも医療機関で定期検査（採血、腹部超音波検査など）を受けることが大切です。

北スラウェシ日本人会　　**会員の入退会のお知らせ**

入会：　太田　隆久　　㈲マルモ産業
TEL: 0438-31575 FAX: 0438-31576
趣味：ゴルフ、山登り

退会：　谷口ヒロユキ　　日本に帰国

マナドの英雄
WALTER MONGINSIDI

── 編集後記 ──

本号は、北スラウェシ出身の英雄を特集しました。普段何気なく通り過ぎている像でも、名前や業績が分かると見方が少しは変わってくるのではないでしょうか。
写真のコピーが多く、少し見にくいかも知れませんが、興味のある方は一度本物をご覧になられることをお勧め致します。

長崎さんの『インドネシアのまぐろ延縄漁業』は、船中で執筆されたものを編集部でタイプしたものです。時間的に余裕がなく、できた原稿に目を通してもらっていません。もし訂正事項が有りましたら、次号で直したいと思います。

庵波人氏の『スラウェシ島の歴史と民族』は、インターネットで見つけ、本人の承諾を得たものです。詳しくは川口までお問い合せ下さい。

次号第５号は特別号として、日本軍政期及びＢＣ級戦犯裁判の特集を行なう予定です。
１００ページ位になる見込みです。
５月初旬発行を目標としています。

第６号は１９９９年７月頃発行を計画しています。
原稿は６月初旬頃迄に編集部にご提出下さい。
特にまだ執筆されていない方、スラウェシ滞在中の思い出の一つとなりますので是非ご寄稿下さい。

１９９９年４月１日

日本人会会報編集部　編集部長：川口博康
編集部員：川井雄二